

東久留米市地域産業推進協議会 会議報告書

元気で活力ある 東久留米を目指して



平成 22 年 2 月

東久留米市地域産業推進協議会

目 次

I. はじめに	
1) 野崎重弥前市長の所信表明を受けスタートした地域産業振興	3
2) 産業振興は“まち”の活性化の基本となる	
3) 本報告の意図するもの	
II. 平成 20 年～21 年度 産業振興に関わる事業推進	5
1) 平成 20 年 2 月 13 日「東久留米市地域産業推進協議会」を立ち上げ	
2) 協議会の基本理念	
3) 協議会の目標（平成 20 年度・21 年度）	
4) 平成 20 年～21 年度東久留米市地域産業推進協議会組織体系図構築	
5) 事業の集中戦略	
6) コミュニケーション戦略	
7) 反響戦略	
III. 平成 20 年度・21 年度の各事業推進と結果 【実施報告】	8
1) 柳久保小麦事業部	
2) 梅ワイン事業部	
3) くるめナビ事業部	
4) 七福神事業部	
IV. 平成 20 年度・21 年度の各事業部詳細報告【目標～課題抽出】	23
1) 柳久保小麦事業部	
2) 梅ワイン事業部	
3) くるめナビ事業部	
4) 七福神事業部	
5) 次なるステップに向けての検討	
V. 産業振興における平成 14 年度準備会からこれまでの活動	32
VI. 平成 22 年度以降の方針について・・・サステナブル体制づくりを目指す	33
VII. 新たな組織体制としての案	34
VIII. 上位関連計画と地域産業振興会議の経緯	35
IX. 東久留米市が持っているポテンシャルから産業構想	38
平成 20 年度東久留米市地域産業推進協議会名簿ー平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月ー	39
平成 21 年度東久留米市地域産業推進協議会名簿ー平成 21 年 4 月～平成 22 年 2 月ー	40
東久留米市地域産業推進協議会	
◎東久留米市地域産業推進協議会企画運営幹事会 開催日	41
◎柳久保小麦事業部会開催日	
◎梅ワイン事業部会開催日	
◎七福神事業部会開催日	
◎くるめナビ事業部会開催日	
東久留米市地域産業推進協議会設置要綱	43
参照資料	
◎資料：柳久保小麦	45
◎資料：梅ワイン資料	48
◎くるめナビ資料	49
◎七福神資料	51
◎資料：地域の資源再発見！シンポジウム	62
◎柳久保小麦取扱店	69
◎梅ワイン「梅うふふ」販売店	70

I. はじめに

1) 野崎重弥前市長の所信表明を受けスタートした地域産業振興

平成 14 年度、野崎前市長の所信表明を受け「地域産業振興会議設立準備会」を設置し、①地域資源の活用 ②市の魅力化 について検討され、翌平成 15 年度から「元気で活力のある東久留米を創ろう」をテーマに、市民委員、関連諸団体、行政が文字通り三位一体となった「産業振興会議」を立ち上げました。

それから 8 年間にわたり、地域産業の活性化に向けて、試行錯誤を繰り返しながら、推進してまいりました。

しかし、東久留米の将来を考えた時、これらの推進は道半ばであり、なお一層の活性化を図るためには新体制をもってこれを継続しなければならないと考えます。

(参照資料：野崎重弥前市長の所信表明は 32 ページ)

2) 産業振興は“まち”の活性化の基本となる

地域活性化事業の観点からみると、農業、商業、工業および農商工連携や、関わる人材の育成と市民意識のシステム化とその潤沢なコミュニケーションが地域の活性化には欠かせません。

あわせ、産業振興の結果は、関わる農商工業者、特に第一次産業に従事している事業所の所得水準をどう上げるかが問われます。

産業を考えることは、部分的な最適化ではなく、地域全体の最適化に結びつくような方向性を示さなければなりません。

また、第一次産業は地域の基盤産業であり、基盤産業の成長を促すことにより、非基盤産業の発展も促進される連続的な局面が表われ、その結果、地域経済の成長があるとされています。

(基盤産業・非基盤産業は説明 2. を参照)

*説明 1. 地域産業振興とは

各地域が持つ、それぞれ特徴のある地域資源を基にした産業を興し支えていくことであり、それぞれの未来目標に応じた技術と方法があります。

例えば、歴史的建造物や街並みを持つ地域では「観光」をキーワードとして宿泊関連、土産品関連等を柱とした産業振興策となります。

また、高速道や港湾といった交通アクセスが良い地域では、物流企業等の誘致による産業振興策となり、税収増や地域雇用の確保を狙います。

それぞれの地域が持つ資源の内容により、多種多様な産業振興策があります。

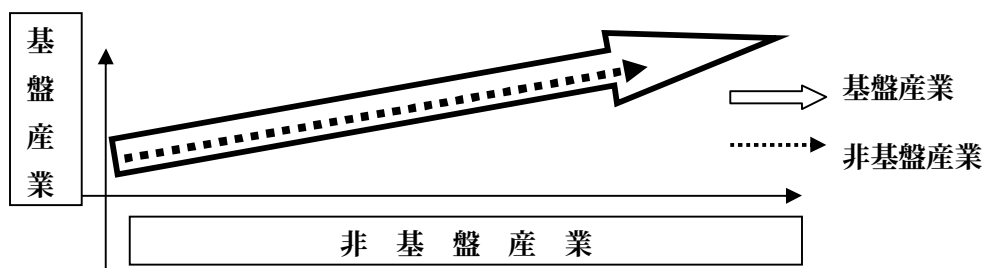
各地域ともに共通して言えることは、市民、諸団体、行政が持てる力量と当事者性を存分に発揮する姿が望まれることにあります。



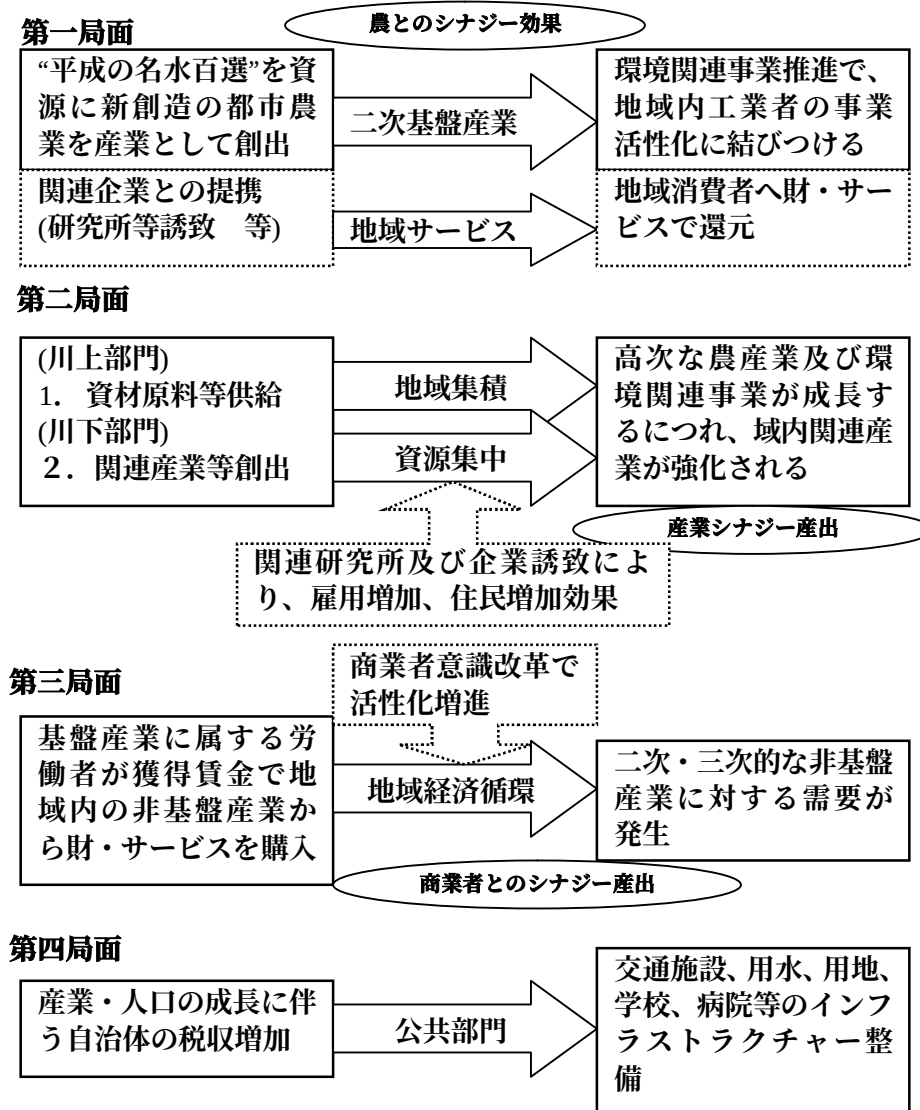
地域産業振興会議風景

*説明 2. 基盤産業とは、地域を代表とする財・サービス等を地域の外部に移出することで、外貨を獲得し、地域に還元する産業。

非基盤産業とは、地域内の市場において、財・サービスを供給する産業。



基盤産業と非基盤産業の例 = (仮説)農と環境産業の創出(内需拡大策)



3) 本報告の意図するもの

本報告書では、8年間にわたる地域産業推進事業の歩みを記録すると共に、その延長線上にある、東久留米市内の農商工業者の活性化を目的としています。

市民が元気で活力をもって生活ができ、市財政の歳入を増やし、福祉、公共サービスの向上等のほか行政運営に関連付けるものとして、同じ志を持つ市民、農商工業者、関係団体、行政が各々の力を発揮させ、夢を実現させるための指針および道筋を示すことができれば幸いです。

Ⅱ. 平成 20 年～21 年度 産業振興に関わる事業推進

1) 平成 20 年 2 月 13 日 「東久留米市地域産業推進協議会」を立ち上げ

平成 14 年、野崎前市長の所信表明を受けて、東久留米市生活環境部地域振興課（当時）を事務局として「産業振興活性化」を目指す委員会が設置され、地域の産業を担う主要な方々が討議・討論を重ねプランを策定し試行を重ねてきました。



協議会会議風景

地場産農産物に関しては、加工品ブランド化構想を基本として、東久留米市発にこだわった製品の企画・開発をしてきました。

平成 20 年春、平成 19 年 2 月に報告された事業振興企画を実践に移し、提案企画事業の仕分け作業を行い、既に事業推進している事業、次年度以降に推進する事業を明確にしました。

特に「柳久保小麦」と「梅ワイン」は、事業の継続と成熟化を図る目標を掲げ、結果を出すに至りました。また、これまでの机上議論から試行反省議論に転換させ、市内の産業を大きく活性化させるための新たな発進と位置づけました。委員には、市の次世代産業を担う方々に担って頂き「東久留米市地域産業推進協議会(以下「協議会」という。)」を立ち上げ、この激動の時代変遷の中、地域産業の活性化とはどういうことなのか、何が東久留米市の産業なのかを考え、自分たちが住む東久留米市を「元気で活力あるまち」にするために、実際の活動をする年度としました。

以上のことから、協議会の企画事業展開で成熟した事業が創出でき、運営そのものを協議会事業から民間の商業者に移行できた事業もありました。

今後、提案された企画の実行、継続事業のテコ入れ、そして、いよいよ市内農商工業者の改革と活性化事業の推進という本丸的事业を推進することが計画の中に盛り込まれています。

(参照資料：これまでの活動の軌跡は 36 ページ)

2) 協議会の基本理念

市の産業振興に関わる問題は、この協議会だけが考え活動するのではなく、この市に住み、営みをする人々全員の農商工業者と市民に理解を頂き、共に話し合い、協力することが最大のテーマであり基本理念です。

3) 協議会の目標（平成 20 年度・21 年度）

前年度までに推進してきた事業の結果を出し、「市」の事業から、「民」中心の事業に移行させ、そこに地域産業の活性化と雇用を生み出す事を目標とし、既に商品化もしくは推進されている次の事業の進捗状況を分析し、結果を出すことを優先させました。

	事業名	目標
1	柳久保小麦	事業の組織化、雇用の創出
2	梅ワイン	事業者に移行させる
3	くるめナビ	事業者に移行させる
4	七福神めぐり	市民が中心となった団体の組織化

優先事業を先行させるために、前年度までに事業企画提案があった下記の事業については、次年度以降に着手することにしました。

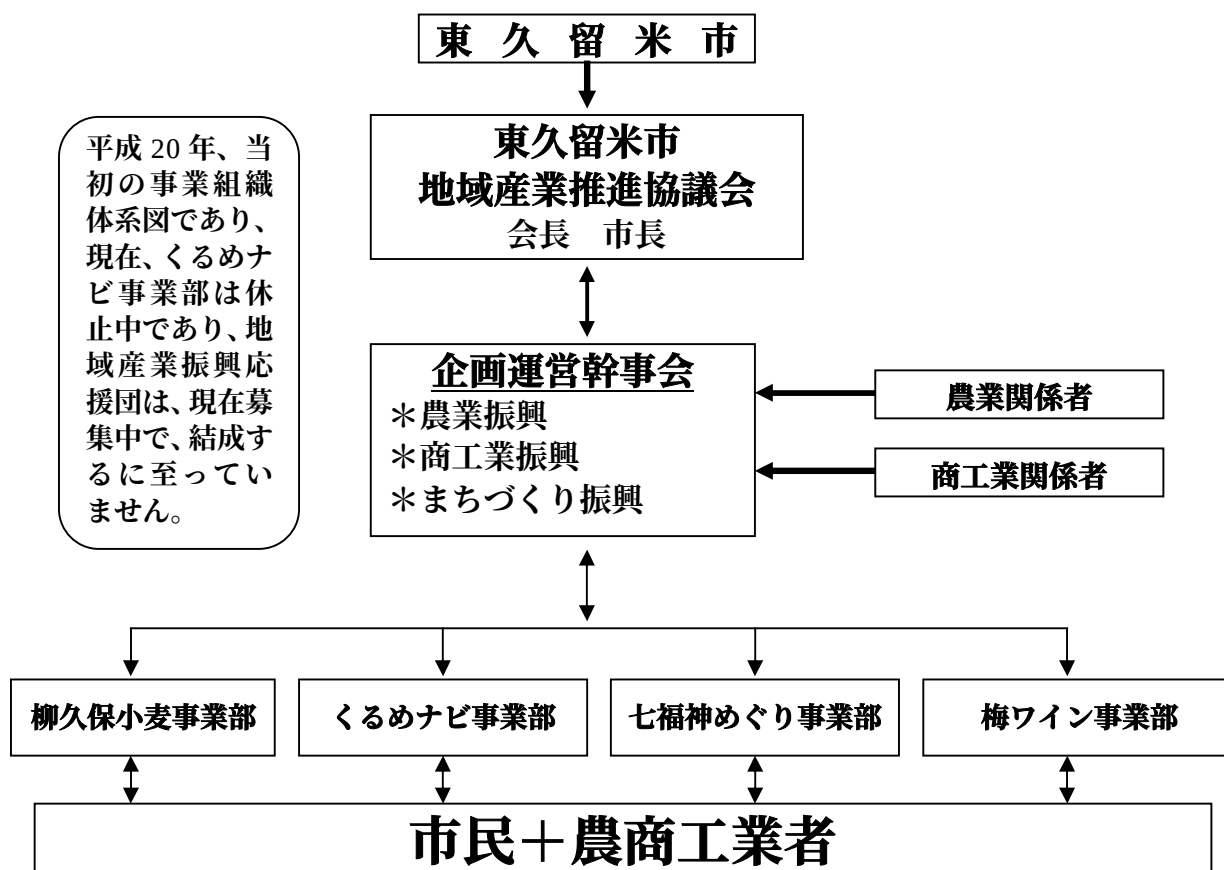
その理由は、優先事業に集中することで、より早く、結果を出すことを目的とするためであり、今年度事業として手をつけると、2 年という期間では終了しきれないと判断した結果です。

	事業名	内容
1	ギャラリーショップ構想	店舗空間の活用
2	起業プレゼンテーション	起業のための支援
3	匠の技	特殊スキルをもった人材資源の維持 発展
4	絵本コンテスト	東久留米市をテーマとした絵本



協議会会議風景

4) 平成 20～21 年度東久留米市地域産業推進協議会 組織体系構築



5) 事業の集中戦略

柳久保小麦、くるめナビ、七福神めぐり、梅ワインに人材を配置し、一極集中しての事業を推進することにより、結果を出すスピードを上げたことにこの年度の特徴があります。

6) コミュニケーション戦略

各事業部の核である、農商工業者との連携を強化することにより、各人の能力が最大限に活用され、新たな発想でのアイデアが生まれやすくなり、東久留米らしさを創出することができ、少しずつ、商品を中心としたコミュニケーションが生まれました。今後は継続することが課題となります。

7) 反響戦略

未だ関わる市民が少数ではありますが、マスメディア等に取り上げられたことにより、自分の“まち”の商品として意識が高まり、外部告知の反響認知が多くなりつつあります。今後の継続に価値を生み出すことが必要です。

Ⅲ. 平成 20 年度・21 年度各事業推進と結果 【実施報告】

1) 柳久保小麦事業部

説明 3. 幻の柳久保小麦が復活されるまで

江戸時代の嘉永 4(1851)年、柳窪の奥住又右衛門が旅先から一穂を持ち帰って育てたもの。その中に大変優良な小麦を見出し、良質な小麦粉がとれる事に気が付きました。

これはうどんにすると、大変に美味しく、香りも高く、人気小麦となり、第二次世界大戦前まで広く東京各地や神奈川県、近隣県で栽培されました。麦の草丈が長いことから、藁葺き屋根にも活用され、大変に貴重な品種でありました。

しかし、戦時中の食糧難時、収穫量が少なく草丈が長いことや倒れやすいなどの理由から、姿が消えて「幻の小麦」となったのです。

昭和の終わり、又右衛門の子孫である四代目奥住和夫氏が「先祖の小麦の復活を」と強く篤く希望し、農林水産省生物資源研究所に保存されていた 300 粒の種を譲り受け、見事に復活させたのが現在の柳久保小麦です。



① これまでの事業部推進状況

平成 14 年度の東久留米市地域産業振興会議設立準備会は、奥住和夫氏の篤い思いで復活させた柳久保小麦を「東久留米ブランド」にして、市の産業振興に結び付けられなしかと提言しました。



これを受けて、農業委員会等の協力を得て、平成 15 年度から増産に向けて取組みを開始しました。

平成 16 年 6 月には、8 戸の農業者の賛同と協力を得て 1,300 kg を収穫しました。

その後、市民に広く認知されるまでに、その美味しさは広がり、市内うどん店がブランド商品として取扱い、かりんとう、お菓子、パンを作るまでに至りました。

② 平成 20 年度・21 年度 of 取組み

＊いよいよ前委員会からの継続事業の集大成として、事業運営体制の確立と販売戦略を策定し、柳久保小麦を使用した商品の開発を 20 年度～21 年度目標と掲げました。

＊ブランド化に向けて名称保存を考え、柳久保小麦の商標登録申請等を進めています。

＊柳久保小麦は、関東経済産業局管内各都県の基本構想において特定された地域資源として認定されており、今後、柳久保小麦を活用した事業者に対しての支援も事業枠内に入れています。

説明 4. 関東経済産業局では、地域産業資源を活用して認定を受けた中小企業により、試作品開発や販路開拓等に対する補助金、設備投資減税、中小企業信用保険法の特例、政府系金融機関による低利融資等の支援メニューを活用した様々な事業活動を行っています。 (参照資料: 45~47 ページ)

また、柳久保小麦を使用し、既に商品化に成功をしている「うどん」「かりんとう」の第二弾として新たな商品化を推進中です。

柳久保小麦は市民の認知度も高く、市内のうどん店で味わうこともでき、地域産業として定着しつつあります。

今後は、小麦の生産から販売まで一貫した組織を構築し、企業体制を整備することで、東久留米の一大産業として市民と共に成長させることにあります。

試作品 「ふすまクッキー」 ●→
柳久保小麦の“ふすま”を活用

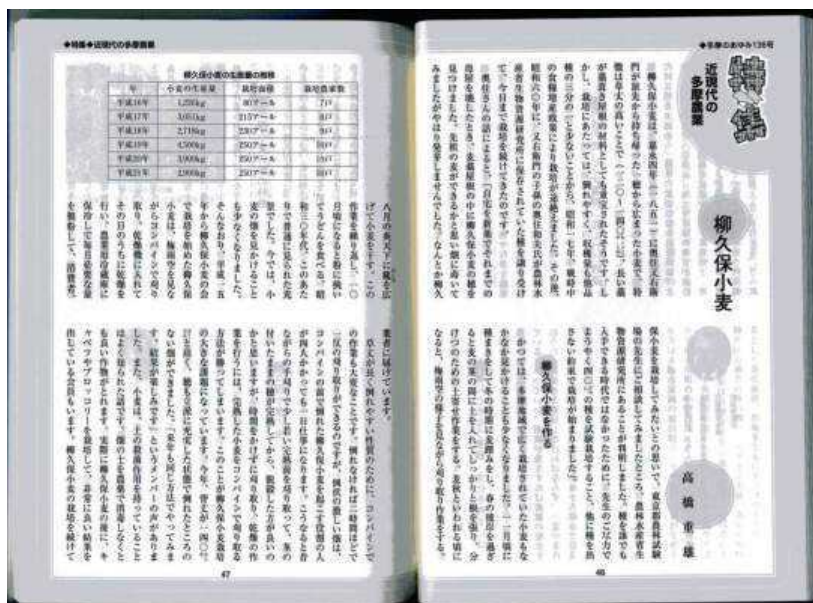


↑
東久留米酒販組合が考案した「ギフトセット」
梅ワイン甘口・辛口と柳久保かりんとう黒糖味・アーモンド味が一緒になって
お中元・お歳暮にも活用されています。

③ 柳久保小麦の生産量推移

年	小麦の生産量	栽培面積	栽培農家数
平成 17 年	3,051kg	215 アール	8 戸
平成 18 年	2,718kg	230 アール	9 戸
平成 19 年	4,500kg	250 アール	10 戸
平成 20 年	3,900kg	250 アール	10 戸
平成 21 年	2,900kg	250 アール	10 戸

◎多摩のあゆみ 136 号 特集近現代の多摩農業に「柳久保小麦」が掲載された

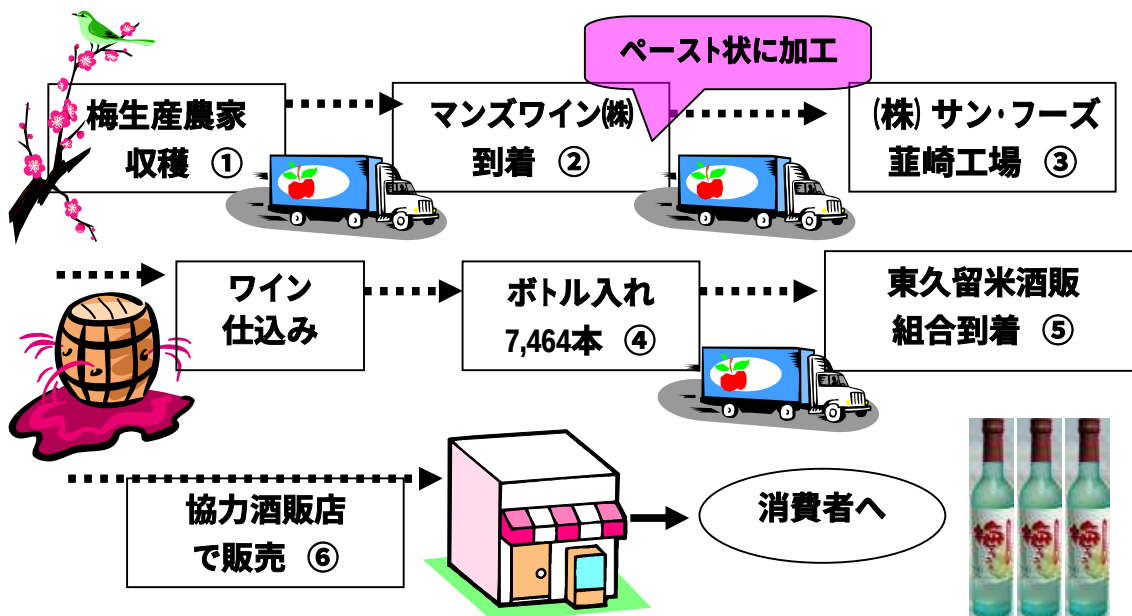


2) 梅ワイン事業部

1. 市税等に頼らずにつくられています。

- ① 東久留米市内梅生産農家からマンズワインが梅実を買い上げ。
- ② 山梨県にある工場で、梅実を種も含めてペースト状にする。
- ③ ペースト状にした梅をマンズワインが買い上げ、マンズワインの工場でワイン仕込み。
- ④ 出来上がりをボトルに詰めマンズワインの倉庫で保管。
- ⑤ 東久留米酒販組合が必要本数を発注し、倉庫から必要本数を発送。
- ⑥ 酒販組合から市内酒飯店へ配達され市民の皆さまにご購入頂く。

説明 5. 東久留米市内梅農家で収穫されて梅ワインができるまで（平成 18 年 9 月 15 日新発売時）
東久留米市のプライベートブランド（PB）としてマンズワイン株式会社に製造しています。
＊マンズワイン株式会社は、日本全国の地域ブランド飲料製造に協力をされています。

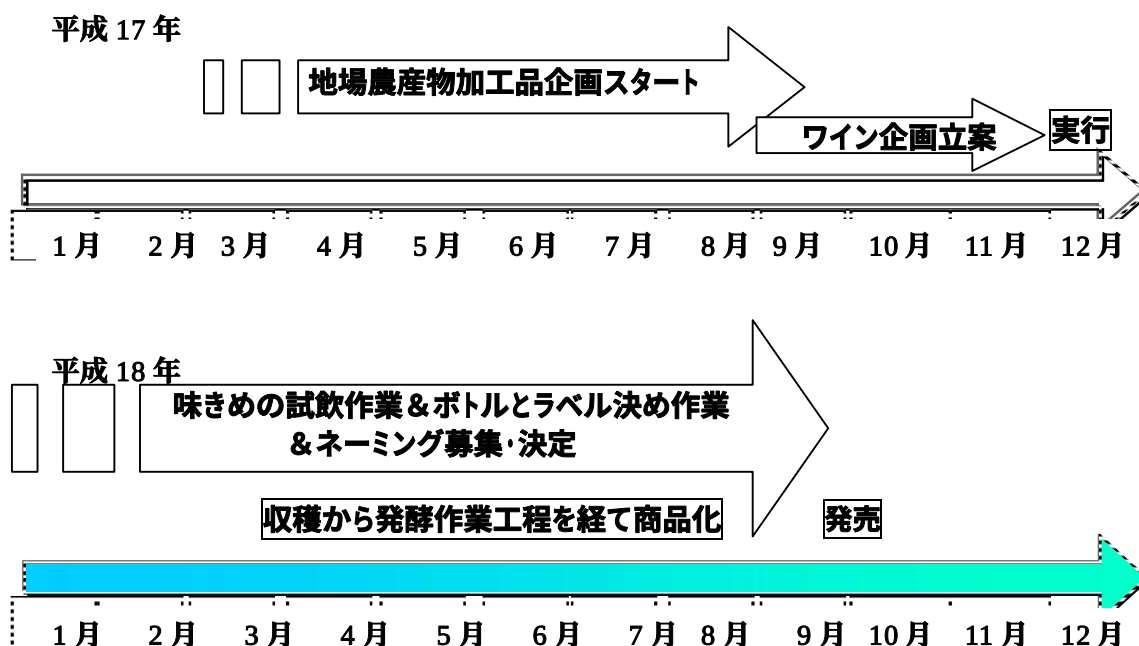


- 梅ワインの味を決める
夜間での試飲
マンズワイン株式会社が 6 種類
の味のサンプルワインを用意。
その中から、甘口の“梅うふふ”
が生まれました。

2. 梅ワインの企画から商品化までのタイムスケジュール（一部）

平成 17 年	11 月 1 日	マンズワイン株式会社担当者に PB 梅ワイン製造の打診
	11 月 4 日	産業振興委員会に企画を諮るが、10 人中 7 人反対し思案 ＊税金をかけずに製造することで了承を得る
	11 月 15 日	(当時の)吉川部長、土屋課長と渡邊委員で、マンズワイン株式会社を正式に依頼のために訪問
	11 月 20 日	東久留米酒販組合の会議で、販売協力方向で採択を頂く
	11 月 21 日	市内梅生産農家へ正式打診しご了解を得る
平成 18 年	2 月 24 日	関係者会議
	4 月 12 日	市長・助役・梅生産農家等とワイン味きめ
	5 月 1 日	「広報ひがしくるめ」で梅ワインのネーミングを市民公募
	6 月 20 日	ボトルラベル決定
	7 月 1 日	ネーミング公募結果を「広報ひがしくるめ」で発表
	9 月 15 日	「東久留米からの梅便り 梅うふふ」の初発売！ ＊ 市庁舎会議室で「記者及び市民発表」を開催 ＊ 価格 500ml 880 円 ＊ アルコール度数 6 度 ＊ ターゲット 20 歳以上の女性 ＊ 製造本数 7,464 本
	11 月 30 日	製造した 7,464 本の全てがマンズワイン株式会社の倉庫から東久留米酒販組合に発送され完売！

3. 梅ワインができるまでの工程略図



上記、工程のとおり、平成 17 年 11 月にスタートした梅ワイン企画が、平成 18 年 9 月に商品化され、発売を可能にしたのは、一重に市内梅生産農家と東久留米酒販組合の積極的な参加とご協力によるものであり、キッコーマン株式会社、マンズワイン株式会社の PB 商品へのご理解があったからこそスムーズな事業化ができました。

4. 平成 18 年 5 月 1 日に「広報ひがしくるめ」でネーミング募集

(広報ひがしくるめと同時に各メディアにリリース配布)

⇒結果：応募総数 330 件

内訳：市内 148 件 (44.8%) 市外 182 件 (55.2%)

＊北は秋田市、南は福岡市より幅広く応募を頂きました。

平成 19 年		＊ 市民への認知度を高め、販売拡大の強化と梅ワインの種類を増加方向で検討に着手 ＊ 域外での販売経路をも模索しつつ、地域限定販売と継続する方針を決定
平成 20 年		＊ 販売拡大のための駅舎内販売等のイベントを企画開催 ＊ 冠婚葬祭やお土産等活用のためにセット販売の検討
平成 21 年		＊ 甘口が在庫として残っていることから、販売促進と認知度向上を図り、駅舎売りイベントの継続開催 ＊ 酒販組合内に梅ワイン事業部設置
	9 月 18 日	＊ 協議会側「官から民へ事業移行」の記者&市民発表会開催 ＊ 酒販組合側「9 月 18 日は“いいワインの日”」記者&市民発表⇒「東久留米梅ワイン解禁日設定」 ＊ 主催：東久留米酒販組合 後援：協議会

5. 「梅ワイン」事業部の平成 20 年度・21 年度の取組み

前委員会からの継続事業を結論付けるため、民間事業者に事業を移行することを目標として事業推進に取り組みました。

認知度を上げ、1 年間の在庫を抱えず完売をさせることを目標に、駅売り、お祭り等イベントを開催し販売促進を重ねました。

特に、協議会の事業部と酒販組合が一体となり、平成 21 年 9 月 18 日の発売日にあわせて FM 西東京での PR 活動を実行。その結果、在庫を抱えていた甘口を中心に辛口も、ロットごとの完売をさせることができるシステムを構築できました。

6. 平成 21 年 9 月 18 日に官から民へ事業移行！＝目標達成＝

平成 21 年 9 月 18 日に目標である「官から民に」をスローガンに、協議会・梅ワイン事業部から東久留米酒販組合に事業を移行する「事業運営移行式」を市民、記者発表会を開催し、本来の事業目標を達成しました。

これは、全国でも珍しい成功例として経済誌にも掲載されました。

酒販組合は、事業移行をした 9 月 18 日を「いいワインの日」として、毎年、東久留米の梅ワイン解禁日と設定して販売を維持継続する。今後も梅生産農家、株式会社マンズワインが商品化協力、市・市民部産業振興課が告知協力をします。

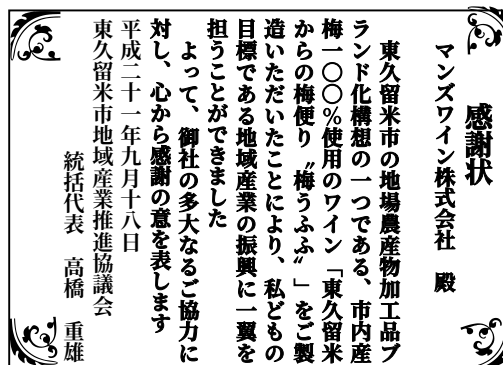
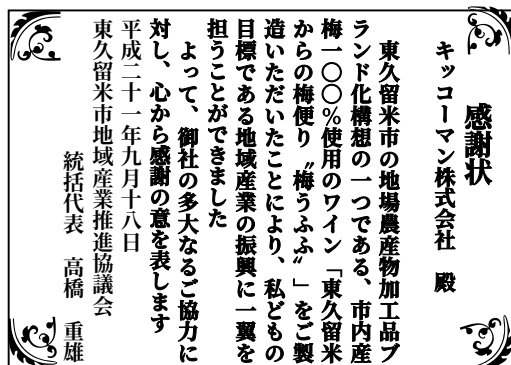
甘口



辛口

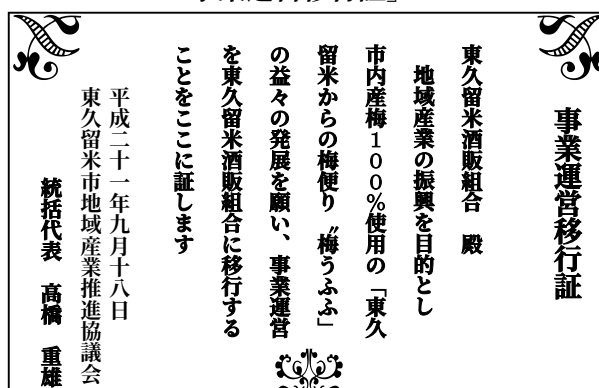
7. キッコーマン株式会社とマンズワイン株式会社へ感謝状贈呈

平成18年当初から、ワイン製造に関しご協力を頂いたキッコーマン株式会社、マンズワイン株式会社に対し、高橋重雄協議会統括代表より、「感謝状」を贈呈しました。



8. 協議会から東久留米酒販組合へ「事業運営移行証」授与

東久留米市地域産業推進協議会から東久留米酒販組合へ
「事業運営移行証」



記者発表と同時に市民に対しての発表会を開催し、約30名の方々がご参集くださり、その中、協議会統括代表高橋重雄より東久留米酒販組合川村組合長に手渡されました。



ただ今 FM西東京にて 「梅うふふ」ラジオCM放送中！

毎週土曜午後2時頃 スポットCM&隔週金曜午後8時15分「絆」番組提供中

CM中「うめえ～」と唸る 謎の大物有名人って。。。誰？？？

気になる方は 店員までお尋ね下さい。

東久留米酒販組合作成販促用ステッカー

◎ 記者・市民発表会風景



● 協議会・高橋統括代表より事業移行になるまでの梅ワイン事業に関する説明

● 各社媒体記者のほか数多くの市民も参加下さいました。



● 「官から民へ」
東久留米市地域産業振興協議会事業

東久留米酒販組合事業へ事業移行

● 梅ワイン販売促進用幟

● 「梅うふふ」 辛口
● 「梅うふふ」 甘口
● 「柳久保かりんとう」



(資料参照：記者発表時の掲載紙は 49 ページ)

9. 東久留米酒販組合の今後の取組み

- A) 事業移行をした9月18日を「いいワインの日」として、毎年「東久留米梅ワイン解禁日」を設定し、販売を維持継続します。
- B) ワインをそのまま飲むだけではなく、ご自宅でカクテルにしたり、料理やお菓子を作る際に活用してもらいます。
- C) 今後も梅生産農家、株式会社マンズワインが商品化協力、市・市民部産業振興課が告知協力をします。

カクテルの試作

- (1) 梅うふふ＋クリームドカシス
＝キールロワイヤル
- (2) 梅うふふ＋ピーチリキュール
＝ピーチキール
- (3) 梅うふふ＋グリーンティリキュール
＝梅うふふグリーン



10. 2006年からの出荷推移

平成18年9月～平成19年8月	7,464本
平成19年9月～平成20年8月	8,652本
平成20年9月～平成21年8月	5,904本

＊平成21年9月18日現在

ご協力を頂いている関係者の皆さま、そして市民の皆さま、本当にありがとうございます。

今後共に「東久留米からの梅便り 梅うふふ」を東久留米ブランド商品としてご活用頂けます様何卒宜しくお願い致します。

3) くるめナビ事業部

① 継続事業目標

市内事業経営者の事業拡大を図り、市内の生活者に地元企業の存在と産業の情報を伝えることにより、市内産業の活性化を目標としました。

② 事業の一時休止

A)平成 16 年度：東久留米市産業情報誌として「KURUME-NAVI」創刊

B)平成 17 年度：第 2 号発行

C 平成 18 年度：「くるめナビ 2007」と名称変更し第 3 号発行

D)平成 20 年度：事業の一時休止を決断

⇒理由：協議会事業部で、くるめナビの活用度を分析した結果、PR 効果が低く、市民の活用が少なく、掲載事業者が減少。このため、新企画提案をしてきたが、マクロ的経済状況も勘案し、平成 20 年 10 月 22 日の協議会企画運営幹事会会議において、苦渋の決断である一時休止の結論としました。

E)平成 20 年 12 月 22 日：「くるめナビ」第 4 号を発行し、その冊子に「2009 年度版くるめナビ」の発行休止の旨を送付しました。

③ くるめナビを休刊にするまでの経緯

H20. 2 月 第 4 号発行 = ページ数を 40 ページから 36 ページに縮小

⇒縮小理由：くるめナビ認知度が低く、活用率が低迷しているために、広告掲載事業者が減少

4 月 掲載事業者向けアンケート実施

⇒アンケート結果：掲載効果が低いことが判明

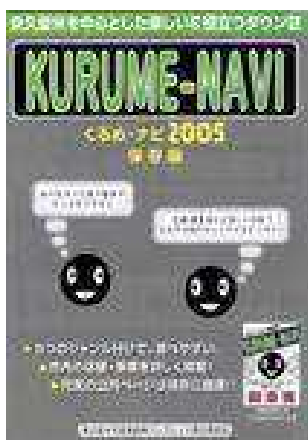
9 月 事業そのものの継続等について検討

12 月 2009 年度版「くるめナビ」の発行休止を決定

⇒告知：くるめナビ掲載事業者へ休刊のお知らせ

(参照資料：休刊のお知らせ内容は 27 ページ)

◎ 2005 年版



◎ 2007 年版



④ 今後について

掲載内容、発行方法等を再検討し、事業者にとってPR 効果が高く、利用する市民にとり、利用価値の高い地域産業情報誌として、再度発行することを目指し、これまでの事業の反省等と踏まえ、今まで以上の事業を拡大することを目標とします。

(資料参照：アンケート結果等 49~50 ページ)

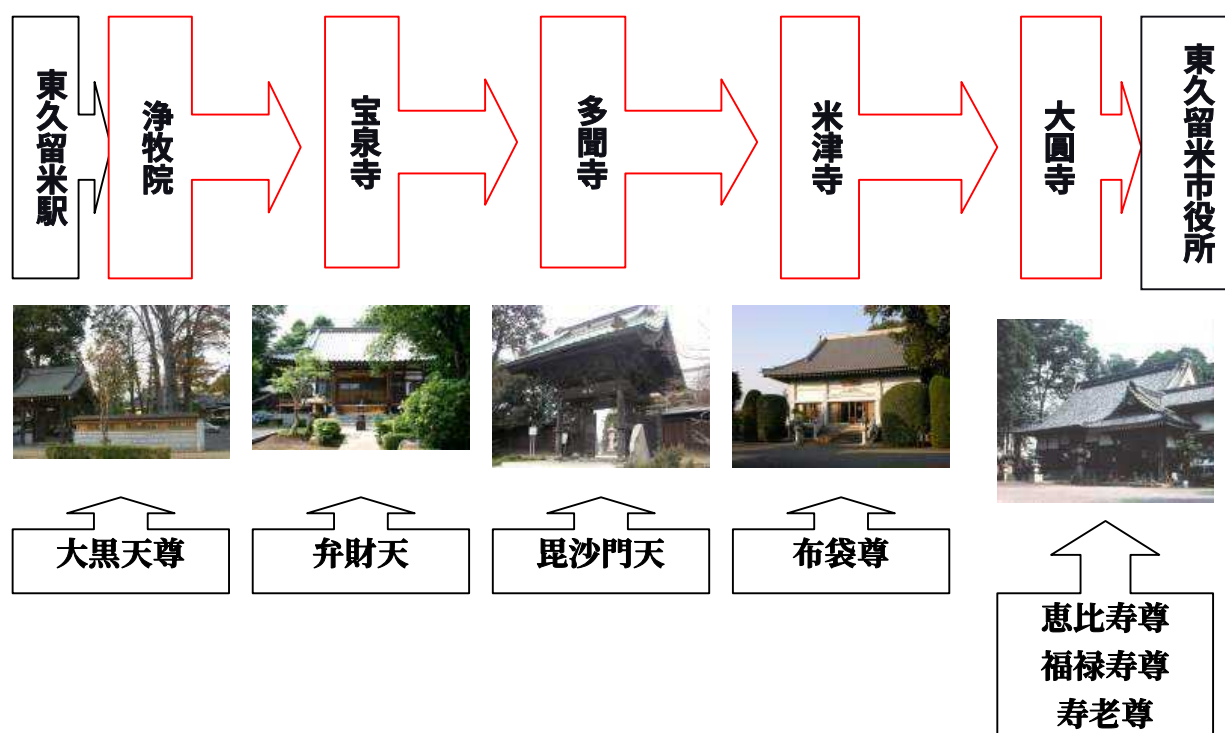
4) 七福神事業部

前委員会からの継続事業として、平成 20 年～21 年度の事業目標を、市・設置の事業部から、農商工業者及び市民が中心となる「七福神めぐり会」を発足させることと位置づけ事業を推進しました。

新協議会の事業として、西武鉄道株式会社主催平成 21 年 1 月 10 日土曜日第 5 回七福神めぐりを後援しましたが、これまでの運営方法を踏襲するだけに留まり、市民を巻き込んでのイベントとすることへの難しさを感じました。しかし、参加者がこれまでで最高の 3,270 名に達しました。この来街者も含めた方々に、もっと東久留米を知っていたき、地場産の P R をすべく、翌平成 22 年 1 月 9 日第 6 回七福神めぐりに挑みました。

(参照資料：第三回～第五回までの資料 57～61 ページ)

① 平成 21 年 1 月 10 日 土曜日 晴れ 参加者：3,270 名



説明 6. 「七福神めぐり」は、西武鉄道株式会社主催の事業で、後援として、東久留米市、J A 東京みらい東久留米支店、東久留米青年会議所、東久留米市地域産業振興委員会及び産業振興協議会等が運営してきました。

説明 7. これまでの開催時天候と参加人数との関係

開催回数	開催年月日	天候	参加人数
第一回	平成 17 年 4 月 16 日 土曜日		241 名
第二回	平成 18 年 1 月 7 日 土曜日		1,800 名
第三回	平成 19 年 1 月 6 日 土曜日	氷雨	375 名
第四回	平成 20 年 1 月 12 日 土曜日	雨	1,300 名
第五回	平成 21 年 1 月 10 日 土曜日	晴れ	3,270 名
第六回	平成 22 年 1 月 9 日 土曜日	晴れ	3,530 名

説明 8. 地域活性化策の中で、企業と連携をしたイベント企画は、来街参加者に対して、その地域の特産物等の販売を積極的に行うことが求められています。

② 第一回 東久留米市文化財講演会 開催

- A) 平成 20 年 12 月 23 日火曜日祝日午前 10 時～11 時半
- B) 東久留米市役所 7 階 701 会議室において
- C) テーマ：「東久留米市の歴史と文化財」
- D) 講師：東久留米市教育委員会郷土資料室学芸員 山崎 丈氏
- E) 参加者：68 名
- F) 内容：“開運！東久留米七福神めぐり”をより楽しむため、市名の由来や七福神にまつわる寺院、文化財について学ぶ

③ 平成 22 年 1 月 9 日開催に向けた動き（前年の反省を踏まえ）

- A) 前年よりも早めに事業部会を開催
- B) 前回開催した勉強会が大変に好評であったことから「文化財講演」から「歴史探訪勉強会」に名称変更をして開催
- C) ボランティア人数の増員
- D) 混雑を避けるために、スタート受付を駅東口階段下から「東口中央公園」に移動
- E) ゴール地点での販売商品数を増やしてもらい、午後 3 時前後にゴールする参加者にも購入できるよう商業者に依頼
- F) ゴール地点での商業者募集で新規商業者が参加

④ 第二回歴史探訪勉強会（文化財講演会から名称を変更）

- A) 平成 21 年 9 月 11 日 金曜日 午後 6 時～7 時半
- B) 東久留米市役所 7 階 701 会議室において
- C) テーマ：産業振興のルーツを訪ねて「森と水のめぐのまち東久留米」－縄文時代
- D) 講師：東久留米市教育委員会郷土資料室学芸員 山崎 丈氏
- E) 参加者：26 名
- F) 内容：東久留米市の遺跡等からの縄文文化と産業のルーツを探る

⑤ 第三回歴史探訪勉強会

- A) 平成 21 年 12 月 9 日 水曜日 午後 6 時～7 時半
- B) 東久留米市役所 7 階 701 会議室において
- C) テーマ：産業振興のルーツを訪ねて「森と水のめぐのまち東久留米」－弥生時代～平安時代－
- D) 講師：東久留米市教育委員会郷土資料室学芸員 山崎 丈氏
- E) 参加者：28 名
- F) 内容：東久留米市は弥生時代には人が減少しているのはなぜか



← ● 東久留米市歴史探訪勉強会風景
第一回から毎回参加市民も多々あり

⑥ 第六回七福神めぐりに向けて関係者参加の事業部会

A) コース誘導ボランティア&出店者ミーティング

- * 東久留米青年会議所
- * 東久留米酒販組合
- * ひがしくるめ手打ちうどんの会
- * 三沢かご店
- * ミナト工業
- * プチ・フル
- * 和菓子処いせや
- * うつわ&カフェかくしち

会議の中、私たち市民も、このイベントをお祭りのような賑わいのあるものに成長させていきたいと、積極的な意見があり、今後の事業開催にも意欲的でした。

B) 市民ボランティア ミーティング

平成 21 年 1 月 10 日開催の七福神めぐりでは、3,270 名もの参加者があり、コース誘導等に人数不足が生じたことから、一般市民等にもボランティア公募をしました。

団体名	人数
東久留米青年会議所	10 名
ひがしくるめ手打ちうどんの会	9 名
シルバー人材センター	9 名
市民ボランティア	6 名
合計	34 名



市民ボランティア ミーティング風景 ●————→

⑦ 第六回 開運！東久留米七福神めぐり 開催！

- A) 実施日時：平成 22 年 1 月 9 日 土曜日 午前 10 時～午後 3 時
 - B) 天候：晴れ
 - C) 参加人数：3,530 名（昨年比 +260 名）
 - D) 参加費：無料・参加賞あり
 - E) コース：東久留米東口中央公園スタート（前年、混雑があった為に今年から変更）
⇒浄牧院（大黒天尊）⇒宝泉寺（弁財天）⇒多聞寺（毘沙門天）⇒米津寺（布袋尊）⇒大圓寺（寿老尊・福祿寿尊・恵比寿尊）⇒市役所ゴール
- 変更点：参加人数が増え、安全性を勘案し、コースを一部変更して実施しました。



●————→ 東口中央公園での受付風景
* 今年西武鉄道株式会社の人員も大幅アップ

【参加者の声】

- * 今年受付がスムーズ
- * 晴れてよかった！
- * 家族全員で来ました

＊落合川・目黒川のある風景を堪能

【参加者の声】

- ＊身近に川があるといいですね
- ＊ちょうど良い大きさの川
- ＊鴨や鯉がいて驚いた
- ＊すがすがしい思い



(参照資料：第六回開運！七福神めぐりチラシは 52 ページ～53 ページ、誘導人員関係は 54 ページ、事業実施後開催した反省会の様子は 56 ページ)

⑧ コース上での休憩所&サービス&販売

JA 新鮮館では、甘酒サービス、野菜販売や、各所で様々な取り組みがされています。

⑨ ゴール物産店

- | | |
|----------------------|-------------------|
| A) ひがしくるめ手打ちうどんの会 | = 柳久保うどん 他 |
| B) 和菓子処いせや | = 柳久保饅頭 他 |
| C) 三沢かご店 | = 竹製品 |
| D) 採れたて野菜 | = ほうれん草、黄色カリフラワー他 |
| E) ミナト工業 | = ちりめん細工 他 |
| F) 東久留米酒販組合 | = 梅ワイン、柳久保かりんとう 他 |
| G) プチ・フール | = 柳久保小麦パン他 |
| H) うつわ&カフェかくしち ⇒ 初出店 | = 陶器、コーヒー、クッキー 他 |

⑩ 市民プラザ内イベント

- A) 湊順子氏製作の「東久留米市内お祭り絵図パッチワーク」9 枚展示
- B) 岡本樹童氏による「尺八演奏」

⑪ 今後の展開について

- A) 七福神めぐりが開催されて、今回で 6 年目(第 6 回)ということで、市の後援事業を市民部が事務局となって展開しているが、今後は、市民が中心となった「七福神めぐり会」が市・市民部に協力体制がとれる方向が望まれます。
- B) 事務局においても、平成 21 年開催時に 3,270 名参加者を経験し、危険コース等を見直し、西武鉄道株式会社と打ち合わせを行い、受付を東久留米駅から、駅近くの東口中央公園に移動をしていただき、コース変更等の参加者の安全を中心と考えた運営となったことは、今後継続する基本となるものとなりました。
- C) 第 6 回東久留米七福神めぐりも晴天に恵まれ 3,530 名が参加し、好天にも恵まれたこともあります。西武鉄道株式会社主催のスタンプラリーのコースともなっているため、認知度が高まり、今後も 3,000 名を超える参加者が予想されます。商業者と連携強化で産業振興に結び付けていきたいものです。



● 米津寺

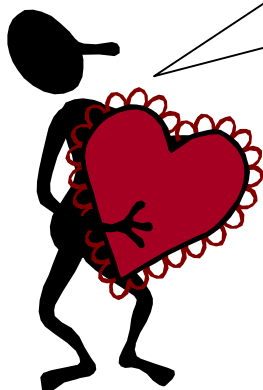
【参加者の声】

- *すべて綺麗にされていて良かった
- *心があらわれるおもい

● 市役所前広場・出店風景

【参加者の声】

- *以前より賑やかに思う
- *尺八等、年々楽しくなりますね
- *「これ!」という目玉が欲しい



東久留米七福神めぐりのイベント時には、3,000名を超える方々が参加下さいました。
参加者に対して、市民の皆さまが温かくお見守り下さいましたことに心から感謝を致します。

5. 具体策の詳細説明

- ① 生産農家・加工業者・販売業者・J A・農業団体が連携するための組織づくり
- ② 販売エリアを市外に拡大できるような販売ルートの確立

6. 独立採算事業として成長するための政策

柳久保小麦事業の採算は小麦の生産量に左右されます。したがって、小麦生産量を増やすための方策を進めていくことが重要課題であり、そのことなしに独立採算事業への成長は見込めません。

7. 今後の目標

- ① 商標登録の完了
- ② 新たな商品の開発
- ③ 販売ルートの確立などの活動支援
- ④ 生産農家・加工販売業者・J A・農業団体などによる推進組織の設立
(仮称)柳久保小麦ブランド推進協議会(商標登録関係)
- ⑤ 事業運営に対して、目標設定やタイムスケジュールの明確化が必要



2) 梅ワイン事業部

事業部長 : 篠宮宣典
事業部員 : 遠藤清美、石坂圭、渡邊恭子
事業連携 : 東久留米酒販組合
事業協力 : 東久留米市内梅生産農家
製造企業 : マンズワイン株式会社
販売協力 : 港屋、足立屋酒店、ぬく井酒店、細田酒店、野島酒店、Pure House たけうち、マイマートしみず、酒工房おおの、Y ショップ・エチゴヤ、長崎屋、JA 東京みらい東久留米支店、海老沢酒店、石森酒店、やまも酒店、田嶋商店、高村屋、田嶋屋酒店、藤小西、セブンイレブン東久留米八幡町三丁目店
(参照資料：梅ワイン販売店 70 ページ)

1. 事業当初目標

- ① 販売拡大 = i. 認知度向上 ii. イベントづくり iii. 各年度販売の完売
- ② 在庫活用 = i. 二次加工品 ii. 二次活用
- ③ 事業を民間事業者に移行

2. 事業の進捗状況

- ① 東久留米酒販組合内に「梅ワン事業部」が設置され、酒販組合との連携事業として位置づけられて協力体制ができ、販売実績が構築されました。
- ② 事業部長のネットワーク協力のお陰で、FM西東京のメディア活用により、「東久留米の梅ワイン」のPR・CMを酒販組合で製作ができ、今後の展開に広がりができました。(=ネットワーク拡大が販路拡大に繋がることの検証)
- ③ 酒販組合事業である「駅売り」に協力することにより、梅ワイン及び協議会の存在の告知もできました。
- ④ 平成 21 年 9 月 18 日に東久留米酒販組合に事業移行完了

3. 事業の問題抽出

- ① 甘口ワインの在庫活用
- ② 酒販店に梅ワインだけを購入しに来る顧客がまだ少ない状況
- ③ 事業部そのものが「梅ワイン」だったこともあり、「梅」=「ワイン」に傾注、「梅」そのものを見直した商品化が必要

4. 抽出された問題への今後の考え方と具体策

- ① 酒販組合事業への継続協力で、甘口ワインの活用法等提案と告知作業協力体制
- ② 酒販店のPR協力
- ③ 梅事業部として「梅ワイン二次活用」のお菓子等の製品開発
- ④ ネット活用の販路拡大と製品化提案募集等

5. 具体策の詳細説明

- ① 梅事業部として、「梅ワイン活用二次加工品コンテスト」企画
- ② 梅ワインを活用した加工企業との連携等
- ③ PCでの販路また製品化提案を求め、掲載・更新等ができるボランティアを求め、広報ひがしくるめ以外の告知システムを充実

6. 独立採算事業として成長するための政策

- ① 事業を移行したことから、製造販売の一貫事業を酒販組合が実行
- ② 広報ひがしくるめ等告知及び販売促進に関する協力体制
- ③ 告知方法により、市民に冠婚葬祭時に活用してもらうためのシナリオ作成等

7. 今後の目標

- ① 酒販組合梅ワイン事業部が公表した 9 月 18 日はいいワインの日を、年に 1 度の行事として協力体制をとっていきます。
- ② 梅ワイン広報・後方支援協力
- ③ 平成 18 年に発足した梅ワイン事業部が民間へ事業移行をしたことをステップ台として、民間事業者との協力体制を強化していきたい。

【販促活動】＝試飲即売会（会場：東久留米駅舎内）（本）

	甘口	辛口	合 計
平成 20 年 9 月 12 日	182	121	303
平成 20 年 12 月 5 日	195	116	311
平成 21 年 7 月 24 日	150	76	226

【年間販売本数】

	甘 口(本)	辛 口(本)	合 計(本)
平成 18 年 9 月～平成 19 年 8 月	7,428		7,428
平成 19 年 9 月～平成 20 年 8 月	不明	不明	8,652
平成 20 年 9 月～平成 21 年 3 月	3,600	3,600	7,200

◎ 新往来に掲載

**官から民へ「梅ワイン事業」を移行
東京都東久留米市**



東京都東久留米市特産の梅（白加賀）を100%使った梅ワイン「東久留米からの梅便り」「梅うらぶ」1、地元ブランド作りの一環として行政主導による、東久留米酒造組合、企業等、農業者の連携・協力のもとに平成18年9月に開始、販売されてから今年で4年目を迎えました。売れ行きが好調なため、市は今年、製造販売の運営母体を東久留米酒造組合に移し、その事業移行を挙行政策として、官から民へのスムーズな事業移行は全道初にもまれぬケースといわれています。

酒造組合は、この移行を契機に、事業移行の当日である9月18日を「いいワインの日」を、「梅ワイン解禁日」と定め、PR用ラジカメも自主作成するなど意気込みでいる。

市は、今後も地元ブランド「東久留米からの梅便り」「梅うらぶ」を有効利用し、地産地消との連携・協力により、さらなる地元ブランド作りに取り組む予定です。
<http://www.city.fujisawakawane.lg.jp>

**食と農のポータルサイト
「おいしい茅ヶ崎」 神奈川県茅ヶ崎市**



「農業ポータルサイト事業」は、市民農家型協賛型農業のびとつとして茅ヶ崎市とNPO法人南郷スタイルが協賛しています。

茅ヶ崎市の持つ農業に関する情報と、南郷スタイルが持つポータルサイト制作のノウハウや取材力を組み合わせることで、より充実した情報を提供することが可能になりました。

「おいしい茅ヶ崎」の概要は、地産地消をコンセプトとし、茅ヶ崎の農産物を身近に感じていただくというものです。地産地消とは何か、地産地消の意義は何か、そしてそれらを踏まえた上で、市民が今日から出来る地産地消を「茅ヶ崎の農業を知る・買う・味わう」という3つの観点から情報提供を行います。

平成21年度は、PRサイトに地元・茅ヶ崎のPRサイトも開設し、茅ヶ崎、茅ヶ崎、茅ヶ崎、茅ヶ崎、茅ヶ崎など各分野のPRサイトを構築し、新たなまちおこしの仕掛けの役割を担っていきます。
<http://oshii-kagasaki.com/>

**安心・安全な農産物を目指して
～元気でやまぶら産産品～**
富山県立山町



立山町では、平成15年度に、「地元で採れた、より安全で安心な食料を消費者の皆さんに届けたい」という思いから、生産者や町、農協、農家が協力して立山町産農産物認証制度を立ち上げました。

平成21年10月6日には、当初の認証から5年を経て、制度見直し後の認証式を行いました。さて、この制度は、産地の振興や、減化学肥料、減農薬といった生産方式が徹底されていることと関係するもので、生産者から採れた野菜・果物、花内ごとの栽培計画を基に、農産物の専門家である立山町農業技術指導員が、生産者の生産履歴を確認し、基準をクリアし、認証を受けた農産物は「元気でやまぶら産産品」のシールを貼って販売することができると共に、学校給食への食材提供が可能となります。今後とも、消費者に安心感を与え、産地振興活動に資するよう認証制度の運用に努めていきたいと考えています。
<http://www.town.tateyama.toyama.lg.jp>

（参照資料：他掲載紙は 48 ページ）

3) くるめナビ事業部

事業部長：高橋重雄

事業部員：伊藤賢一

1. 事業当初目標

- ・ 市内農商工業者の活性化

2. 事業の進捗状況

- H20. 2月 第4号発行 = ページ数を40ページから36ページに縮小
 ⇒縮小理由： くるめナビ認知度が低く、活用率が低迷しているために、広告掲載事業者が減少
- 4月 掲載事業者向けアンケート実施
 ⇒アンケート結果：掲載効果が低いことが判明
 (アンケート結果等49~50ページ参照)
- 9月 事業そのものの継続等について検討
- 12月 2009年度版「くるめナビ」の発行休止を決定
 ⇒告知：くるめナビ掲載事業者へ休刊のお知らせ

◎休刊のお知らせ

平成20年12月22日

くるめナビ掲載事業所 各位

東久留米市地域産業推進協議会

2009年版『くるめナビ』の発行休止について

拝啓、日頃から『くるめナビ』をご利用いただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、『くるめナビ』は2005年より掲載事業所皆さまのご支援をいただき、本年まで4号の発行を重ねてまいりましたが、2009年版は、発行を一時休止させていただくことになりました。

その理由といたしましては、内容、発行方法等を再検討し、事業者皆さまにとってはよりPR効果が高く、利用される読者の方々にとってはより利用価値の高い、地域産業情報誌を目指したいと考えています。

既刊4号までは1万5千部を駅等での配布ならびに転入世帯等に配布してまいりましたが、これをどのように拡大できるかが検討の視点になるものと考えております。

つきましては、ご支援・ご利用いただいております貴事業所には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒、本趣旨をご理解いただきたくお願い申し上げます。

なお、新たな発行スタイルを検討するにあたり、事業所皆さまの掲載のご意向を把握させていただきたいと考えております。その節は、ご協力いただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

敬具

問い合わせ先 同協議会事務局 東久留米市役所産業振興課
 TEL 470-7743

4) 七福神事業部

事業部長：渡邊恭子

事業部員：栗原和史、(小山秀男)

事業主催：西武鉄道株式会社

事業後援：東久留米市、JA 東京みらい東久留米支店、東久留米青年会議所
東久留米市地域産業推進協議会 等

事業協力：東久留米青年会議所、シルバー人材センター、ひがしくるめ手打ちうどんの会
JA 東京みらい東久留米支店、プチ・フール、三沢かご店、東久留米酒販組合、
ミナト工業、和菓子処いせや、うつわ&カフェかくしち、市民ボランテ
ィア、市民部産業振興課職員、他部職員 等

1. 事業当初目標

● 事業部として

- ① 一般市民ボランティアを募集＝「東久留米おもてなし隊」結成
- ② 東久留米市の歴史を勉強することから始め、七福神と産業の変遷等を市民と共に学ぶ会をつくる
- ③ 七福神めぐりの「会」を農商工業者と市民で組織体制を構築したい

■ 西武鉄道株式会社として

東久留米の七福神をより多くの方々に知っていただき、1月の七福神ウォークに多くのお客様にご参加頂く。

地元住民の方々が、ウォーキングにご参加のお客様を気持ち良くおもてなしをすることで、お客様に引き続き東久留米市に訪れていただくようにする。

2. 事業の進捗状況

● 事業部として

- ① 平成 20 年 12 月 23 日、東久留米市教育委員会郷土資料室学芸員山崎丈氏を講師に「七福神」にまつわる「第一回歴史探訪勉強会」を開催し、約 70 名弱の参加者がありました。
- ② 平成 21 年 1 月 10 日土曜日「第五回東久留米開運七福神めぐり」を開催。天候も良かったことから、3,270 名の参加者があり、大盛況に終わった。反省点も多く残りました。
- ③ 平成 21 年 9 月 11 日「第三回歴史探訪勉強会」産業振興のルーツを訪ねてと題して、「森と水のめぐみのまち東久留米―縄文時代―」を同講師が講演。また、平成 21 年 12 月 9 日に「第三回歴史探訪勉強会」を開催し、一弥生～奈良・平安時代―を学びました。
- ④ 平成 22 年 1 月 9 日開催の「第六回開運東久留米七福神めぐり」を目指し、歴史探訪勉強会ごとに「七福神めぐりのボランティア」を募集したが中々集まりませんでした。
- ⑤ ボランティアは、事務局からの依頼と公募で、東久留米青年会議所、酒販組合、シルバー人材センター、手打ちうどんの会、市民ボランティア等計 30 名が手を上げてくれました。

■ 西武鉄道株式会社として

東久留米市の努力と西武鉄道の積極的な宣伝PRの実施により、平成 21 年 1 月 10 日実施の七福神ウォークは、3,270 名(対前年+1,953 名)の参加があり、当初のより多くのお客様のご参加を目指す目的は達成できたと考えられます。

ただし、地元住民の方々の「おもてなし」マインド醸成は 100%とは言い難いと考えられます。

3. 事業の問題抽出

● 事業部として

- ① 目標立てをしてまだ 2 回目ということもあり、まだ当初目的に達していません。
- ② 農商工業者、市民、諸団体の輪ができつつあります
- ③ イベント開催に対する市民意識を向上させる仕組みづくりが必要。
- ④ 産業振興課が事務局として介在してくれているので、イベント取組の中継地点として、各方面への働きかけをしてくれているが、そこから脱皮した成長戦略を打つ必要があります。
- ⑤ 中心となる「人」を見出すことができていない。

■ 西武鉄道株式会社として

多くのお客様を受け入れる体制が十分とは言い難い現実があります。
貴重な観光資源と考えられる「七福神」に関わるイベントが、お正月の 1 回開催で十分と考えられるでしょうか。

4. 抽出された問題への今後の考え方と具体策

● 事業部として

- ① 年間を通し「七福神めぐり」に関する認知度を高める活動が望まれます。
- ② 義務的感覚ではなく、農商工業者及び市民が自ら参加して「お祭り戦略」必要。
- ③ 来街者に対する「おもてなし」の心が必要です。＝「東久留米おもてなし隊」の結成(⇒イベント時の市民からのクレームが多く寄せられた)
- ④ 農商工業者及び市民が団体組織化することで、市民への広がりも期待でき、スムーズな話し合いもできると考えます。

■ 西武鉄道株式会社として

住民が観光客に対するより一層の「おもてなしマインド醸成」が図れるように、市関係部署から今以上に定期的な情報発信を行っては如何でしょうか。
観光のお客様が増えることは、観光のみならず地元産業の宣伝・飲食等による経済波及効果が大いことについても住民の方々へ市・関係部署から情報発信を今以上にやっては如何でしょうか。
七福神を含むイベントを季節の良い時期に追加で 1 回行ってみては如何でしょうか。

5. 具体策の詳細説明

● 事業部として

- ① 年間を通した勉強会等を開催し、教育委員会との連携で、市内歴史探訪など共通イベントを開催し、その中から市民ボランティアが育つことを期待しながら、「おもてなし隊」を結成し事業を移行したいと考えます。
- ② 七福神に関わるグッズアイデアなどを広く募集し、新たな東久留米観光用アイテム商品を創出。
- ③ 小中高校生及び市民を対象にして「七福神ポスターコンテスト」を実施し、毎年、優秀作品をポスターにします。
- ④ 農商工業者が自ら参加しやすい仕組みづくり

■ 西武鉄道株式会社として

他の観光地の先行事例を研究し実施してみることも考えられます。

春に黒目川・落合川・平成の名水百選等、東久留米市の自然を主なテーマとして、さらに七福神の歴史文化を加えたウォーキングイベントも東久留米市観光PRには効果が大きいのではないのでしょうか。

6. 独立採算事業として成長するための政策

● 事業部として

市の観光事業の推進母体として、新たな代替組織を目指します。

■ 西武鉄道株式会社として

他の観光地で先行実施しているように、ボランティアガイドを育成し、ボランティアガイドによる「七福神」を含む観光案内を通年で実施することも考えられるのではないのでしょうか。

1回のお客様は10名程度とし、ボランティアガイド・ご住職等から、きめ細かいご案内、名物の美味しい昼食等を組み込んだ企画を作ってみることも考えられるのではないのでしょうか。

先行事例では、お客様からはガイドに見合う相当額を頂いているようです。

7. 今後の目標

● 事業部として

- ① 「七福神めぐりの会」と「東久留米おもてなし隊」の発足を目指したいと考えます。
- ② 教育委員会と連携した「東久留米歴史探訪勉強会」の継続。
- ③ 平成21年の七福神めぐりには3,270名、平成22年は3,530名の参加者がありましたが、この参加者に対し、東久留米市の産業をいかにPRするかが課題。
- ④ 観光的要素

■ 西武鉄道株式会社として

事業当初目標と同じ。



絵・ホビタスニュース HP より引用

5) 次なるステップに向けての検討

地域産業推進協議会では、地場産農産物を利用した新たな地域ブランド品の企画検討をするため、宮坂醸造株式会社東久留米工場副工場長ならびに食育コーディネーターの大村直己氏を地域産業推進協議会（第12回平成21年2月12日）にお招きするなど、数回に渡ってアドバイスやご意見をいただきました。

（地域産業推進協議会で検討された企画）

①東久留米産の野菜を使ったフリーズドライ加工食品の開発

市内企業の宮坂醸造（株）のフリーズドライ技術を活用し、地域ブランド商品を開発できないか、同社副工場長にヒアリングを行いました。

②柳久保小麦などを使ったプレミックス食品の開発

食育コーディネーターの大村直己氏に、柳久保小麦や地元野菜を使ったプレミックス商品の開発について、消費者の指向や商品例のアドバイスを受け、商品化が可能な企画案の検討を行いました。

（検討結果）

①宮坂醸造（株）とのコラボレーション企画のフリーズドライ加工食品は、農商工連携に新しい活路をひらくプロジェクトです。しかし、製造コスト等の課題があることから、引き続き今後の検討が必要となりました。

②柳久保小麦と小麦のフスマを使った商品、例として、クッキー・パン・ホットケーキ等のミックス素材として活用は可能とし、今後の検討課題となりました。

V. 産業振興における平成 14 年度準備会からこれまでの活動

1) 東久留米市の「地域産業振興」～発足～

平成 14 年度、野崎前市長の所信表明を受け「地域産業振興会議設立準備会」が設置され“地域資源の活用”“市の魅力化”について検討が開始されました。

野崎重弥前市長の所信表明

① 地域産業

地域経済人や有識者など意欲のある多様な人材によって構成する「産地域産業振興会議」を創設する。

② 商業

東久留米の商業は自然発生的に生まれたものであるが、近年、東久留米東口・西口を中心として商業施設の核ができつつある。これからは、後継者やリーダーの育成強化を図り、商店街の高度化事業、店舗の共同化による助成制度、空店舗対策を確立し、魅力ある商業環境を創出する。

③ 農業

農業振興計画に基づき、今後、生産緑地の保全。地域ブランド農産物への支援、有機農業の推進、JA 東京みらいとの連携、消費者や都市農業の理解者と一体となった「農あるまちづくり」を行う。

2) 平成 15 年度

準備会から発展した「地域産業振興会議」を立ち上げ、約 4 年間にわたり“元気で活力のある東久留米を創ろう”をテーマに市民委員、関連団体、行政が一体となり検討。

3) 平成 16 年度

14 年度の準備会において検討された課題を基に個別リーディングプロジェクトを立ち上げ、具体的検討に着手。

4) 平成 17 年度・18 年度

平成 17 年 3 月に報告された「元気で活力ある東久留米を目指して」を受け、「地域産業振興委員会」は、平成 14 年度から検討し続けてきた案件を実際に形として、事業者が中心となる振興事業策を企画し、維持継続できる商品開発と販売を実行。

5) 平成 19 年度

維持継続できる商品開発と販売等の事業を継続しつつ、将来の産業振興組織のあり方に目を向け、それを実現する 1 歩として「東久留米市地域産業推進協議会」を平成 20 年 2 月に立ち上げ。

6) 平成 20 年度・平成 21 年度

新たな協議会組織では、これまで挙げられてきた提案企画の仕分け作業を行い、既に事業推進している事業、次年度以降に推進する事業を明確化。

「梅ワイン事業」を民間の商業者に事業を移行でき、本年度目標を達成。

次年度は、これまでの総決算年度と位置づけ、提案された企画の実行、継続事業のテコ入れ、また新たに農商工業者のより一層の活性化事業の推進を図っていきます。

VI. 平成 22 年度以降の方針について・・・サステナブル体制づくりを目指す

1) 各事業部の目標の概要は

1. 柳久保小麦事業部は「柳久保小麦の事業化」
2. 梅ワイン事業部は「梅事業部」に生まれ変わり、農産物全般にも目を向ける
3. 七福神事業部は「観光集客事業化」

2) 企画段階でとどまっている事業

1. ギャラリーショップ構想
2. 起業プレゼンテーション
3. 匠の技事業
4. 絵本コンテスト

◎実施可能な事業から着手を目指す

3) 具体的な活動方針

活動年度とし、新たに「(仮称) 地域産業育成推進センター」の設置を将来目標として設定し、机上協議から、実際に農商工業者の活性化事業を展開する年度としたい。

4) ビジョンと目指すべき視点は

1. 新組織創設のための準備会も兼ねる
2. 市民発想で新しい商品が構想される環境整備
3. 市民が自由に新ビジネスに参加できる環境整備
4. 定性的効果に留まらず定量的効果が出る環境
5. 地元資源の融合体制
6. 公民連帯による支援体制の構築
7. 既存資源活用で、高付加価値商品の開発
8. 域外販売における梅ワイン・柳久保小麦商品のブランド化

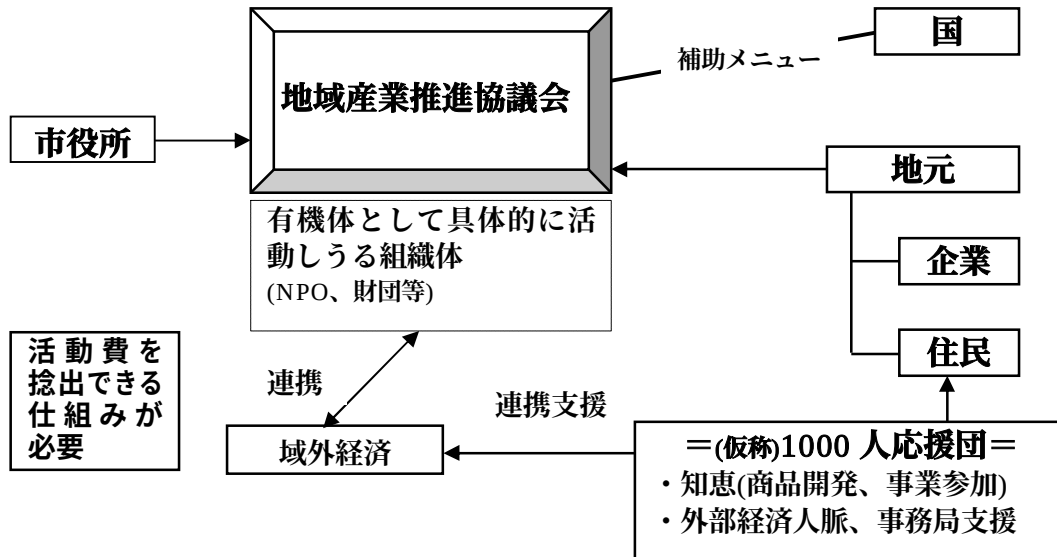
◎特産品とイベントを組み合わせ、マスメディアを活用したシティセールスの企画等々が上げられています。この項目を実際に実行するのが次年度以降の協議会事業となります。



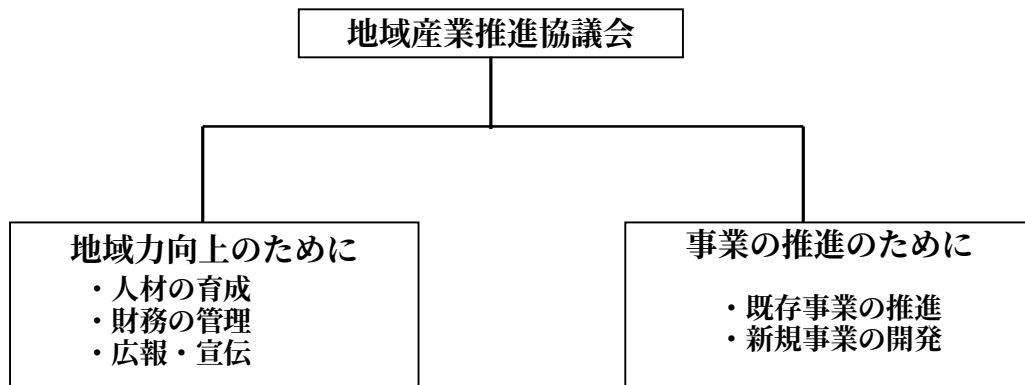
VII. 新たな組織体制としての案

1) 目 標

… 例：公民連携推進母体の設置（社団法人等）



2) 目標達成のためのステップ



3) 既存事業の見直しと推進

- ① 現在推進中事業の見直し。
- ② 企画のみで事業化されていない案件を計画案として実行できるか否かを即時検討。
- ③ 再検討の上、実行できる事業はチーム編成し事業化。
- ④ 現在進行中の事業及び再検討企画案件の目標設定をし、計画、スケジュールを組む（例えば、上限目標数値を2年間にするなど）。

4) 地域力向上を目指して

- ① 平成 14 年度、野崎前市長の所信表明から設置された「産業振興会議・委員会等」は、丸 8 年間、市内諸団体、市民を巻き込みながら推進してきました。
- ② 平成 22 年度は、目標設定を新たな組織設置に向け、更なる産業推進を実施する必要があります。
- ③ 組織体制づくり（人材の発掘等含む）
- ④ 新体制のビジョン・目標等を構築して、今後進めていきたい事業などの意見を計画案として落とし込む必要があります。

5) 目標組織の構築のため

- ① 産業振興組織運営と同時に、次の組織体制構築のための「準備会」を設置し、現在の組織構図では実行不可能な事業のインキュベート。
- ② 準備会に、新たな発想での事業案を求めていく必要性。

VIII. 上位関連計画と地域産業振興会議の経緯

1. 上位関連計画

第 4 次長期総合計画基本構想中間答申（平成 21 年 10 月）では、基本目標（5）「にぎわいと活力あふれるまち」とビジョンを掲げ、市内現状について次のように述べています。

経済グローバル化による競争の激化、不況の長期化、消費者の生活様式、需要の多様化などにより、市の産業を取り巻く環境は厳しさを増しています。

市内の産業の動向は、市の税収に影響を及ぼします。市内には食品加工や機械加工を中心とした製造業の事業所、工場があり、雇用を創出しています。また、地域の商店街は市民の生活を支え、にぎわいを生み出す場ですが、都心部の商業集積地に、市内の購買力が流出していることもあり、商店数は減少傾向にあります。さらに、市の産業の特徴に農業を占める割合が高いことが上げられますが、農業従事者の高齢化や相続の発生にともない、農地を手放す農家が増え、市内の農地も減少傾向にあります。

この現状を打破するためにはどのようにしたら良いのかを次に述べています。要約をすると以下ようになります。

1) 自立した市政を継続

- ① 市民が豊かな都市生活享受
- ② 市民が市内で交流、消費活動が楽しくできる機能集積



- ③ 既存事業所の支援と新事業所の誘致

2) 地域産業活性化策

- ① 回遊性の高い環境整備
- ② 商店街整備でコミュニティ活動支援

3) 生産者の見える安心・安全な農産物生産

- ① 農業の活性化対策
- ② 援農ボランティア活動の促進
- ③ 地場産農産物の告知・販売促進

4) 経済活動が循環するための消費者があつまるまちづくり

- ①市の未来を担う次世代世帯が移住できるしくみづくり
- ②若者が集まって自由に活動できる場づくり
- ③元気な高齢者が地域の一員として活躍する機会を創出

2. 地域産業振興の軌跡

1) 経緯

平成 14 年度	東久留米市地域産業振興会議設立準備会発足 ＊同会議報告「元気で美しい、出会いにあふれた東久留米をつくるために」平成 14 年 12 月報告
平成 15 年度	東久留米市地域産業振興会議設立 準備会の提言を受け 4 ワーキンググループ活動開始 ＊平成 15 年 10 月 第一回ふれあいウォーキング ＊平成 15 年 11 月 柳久保小麦 作付け開始 ＊同会議報告「地域産業振興に関わる中間報告」 ⇒平成 16 年 1 月報告
平成 16 年度	4 ワーキング G で 7 プロジェクトを選定し実施 ＊平成 16 年 10 月 柳久保小麦加工品販売に向けて試食会 ＊平成 17 年 3 月 産業情報誌「KURUME-NAVI」創刊 ＊平成 17 年 3 月 報告書提出「元気で活力ある東久留米を目指して」 ＊「ニッポン食育フェア・ふるさとに残したい食材百選」出展 （＝東京国際フォーラムにて） ＊同協議会報告「元気で活力ある東久留米を目指して」 ⇒平成 17 年 3 月報告

【地域産業振興会議から産業振興委員会へ移行】

平成 17 年度	参加委員メンバーも新たに平成 14 年度からの課題を抽出し 16 年度までに実行されてきた 4 ワーキング 7 プロジェクトの精査・課題抽出と継続事業実行 ＊平成 17 年 4 月 第二回ふれあいウォーキング&第一回七福神めぐり ＊平成 17 年 5 月 地域産業振興シンポジウム開催 ＊平成 18 年 1 月 第二回東久留米七福神めぐり開催 （主催：西武鉄道株式会社 後援：東久留米市 他） ＊柳久保小麦加工品「うどん」「まんじゅう」「パン」「かりんとう」を随時発売開始 ＊産業情報誌「KURUME-NAVI」第 2 号発行
----------	--

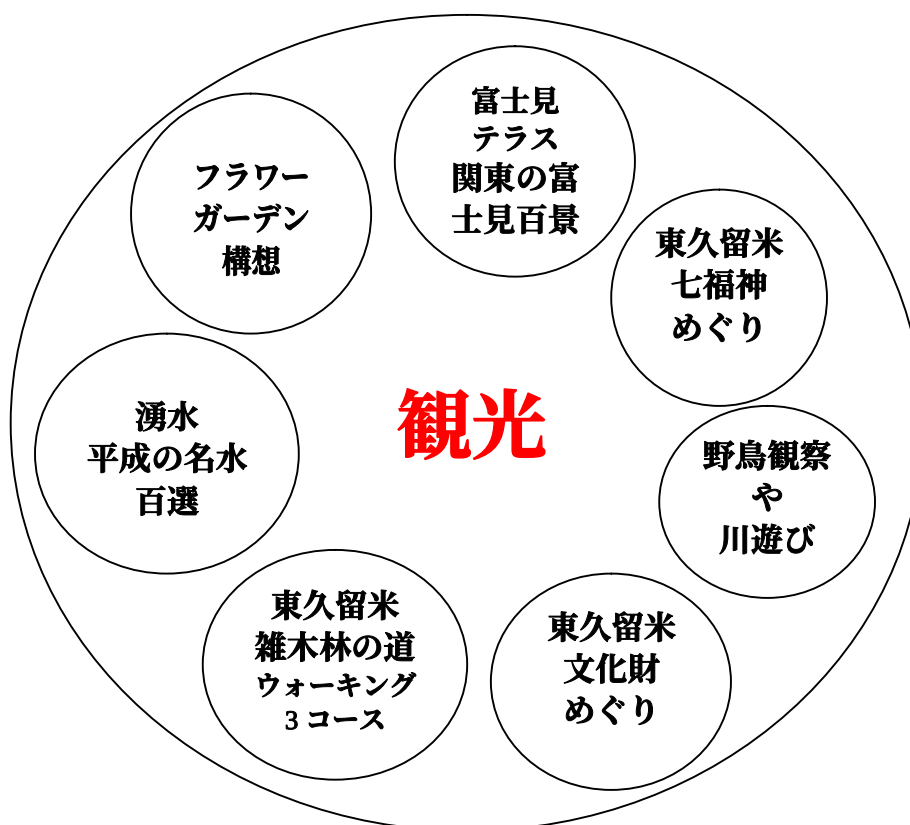
平成 18 年度	東久留米市地域産業推進事業「地場産農産物加工品ブランド化構想」からの新プロジェクト立ち上げと既存事業推進 * 平成 18 年 9 月 梅ワイン初発売(当初は甘口のみ) * 平成 18 年 12 月 農水省交流情報誌「新往来」・梅ワイン掲載 * 平成 19 年 1 月 第三回東久留米七福神めぐり開催(後援事業) * 平成 19 年 1 月 産業情報誌「くるめナビ 2007」第 3 号発行
平成 19 年度	地域産業振興がスタートして 4 年経過したことを踏まえ、「事業化」を今後の展開目標とする *平成 19 年 6 月 梅ワインの辛口発売に向けたラベル決め *平成 19 年 8 月 新たな梅ワインポスター作成 *平成 19 年 8 月 新たな推進協議会立ち上げについての打ち合わせ *平成 19 年 9 月 梅ワイン新発売(辛口) *平成 19 年 9 月 新たな推進協議会立ち上げについての打ち合わせ *平成 20 年 1 月 第四回東久留米七福神めぐり開催(後援事業) *平成 20 年 2 月 産業情報誌「くるめナビ 2008」第 4 号発行

【平成 20 年 2 月 東久留米市地域産業推進協議会へ移行】

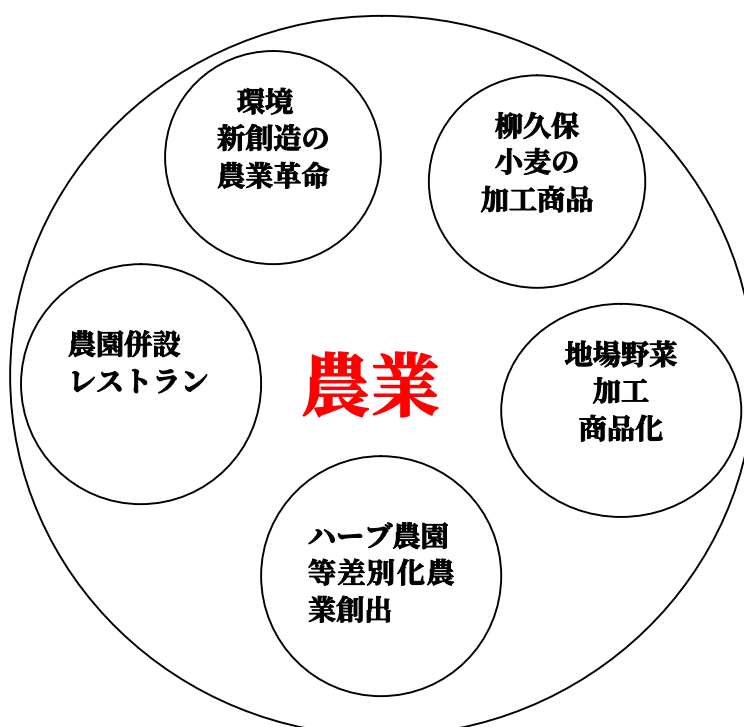
平成 20 年度	協議会移行と同時に、地域産業の次世代を担う委員を中心に、推進事業の見直しと既存推進事業の円滑化 * 産業情報誌「くるめナビ」の休刊 * 梅ワイン事業の事業移行を目的とした推進 * 柳久保小麦事業の組織化を目的とした推進 * 平成 20 年 12 月 第一回七福神事業部事業「歴史勉強会」開催 * 平成 21 年 3 月 27 日 宮坂醸造(株)副工場長と食育コーディネーター大村直己氏による新たな地域ブランドの企画案を検討
平成 21 年度	協議会事業の優先事業プロジェクトの推進と次組織に向けた課題の抽出と構想の打ち出し * 平成 21 年 1 月 9 日 第五回東久留米七福神めぐり開催(後援事業) * (主催：西武鉄道株式会社 後援：東久留米市 他) * 平成 21 年 5 月 11 日 協議会において「地場産農作物を利用した新たな地域ブランド」の検討 * 平成 21 年 9 月 18 日 梅ワイン事業を酒販組合に事業移行 * 梅ワイン事業部を梅事業部に改名 * 柳久保小麦が地域資源に認定 * 平成 21 年 9 月 第二回七福神事業部事業「歴史探訪勉強会」開催 * 平成 21 年 12 月 第三回七福神事業部事業「歴史探訪勉強会」開催 * 平成 22 年 1 月 9 日 第六回東久留米七福神めぐり開催(後援事業) * 平成 22 年 1 月 31 日「地域の資源再発見！シンポジウム」開催 * (主催：東久留米市 (財)自治総合センター 後援：総務省) * 柳久保小麦の地域団体商標登録申請提出(予定)

IX. 東久留米市が持っているポテンシャルから産業構想

例 1) 観光産業



例 2) 都市農業と商工業者とのコラボレーション



平成 20 年度東久留米市地域産業推進協議会 名簿
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月

高橋 重雄	農業者	東久留米市中央町
遠藤 清美	//	東久留米市南町
伊藤 賢一	商工業者	東久留米市東本町
齋藤 正人	//	東久留米市八幡町
加藤 弘茂	鉄道運輸関係	西武鉄道（株）運輸部長（平成 20 年 6 月まで）
小山 秀男	鉄道運輸関係	西武鉄道（株）鉄道本部ｽﾏﾙ&ｽﾏﾙ部（平成 20 年 7 月から）
篠原 康明	有識者	（財）都市みらい推進機構企画調整部長
渡邊 恭子	アドバイザー	(株)プラスワン・ルネ国際研究所代表取締役
吉川 光彦	事務局	市民部長
土屋 清	20 年 3 月まで	市民部産業振興課長
木暮 昭	20 年 4 月から	市民部産業振興課長
腰越 政男	21 年 3 月まで	市民部産業振興課農政係長
中島 哲	20 年 3 月まで	市民部産業振興課労政商工係長
渡辺 孝一	20 年 4 月から	市民部産業振興課労政商工係長

東久留米市地域産業推進協議会企画運営幹事会名簿
平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月

高橋 重雄	農業者	東久留米市中央町
遠藤 清美	//	東久留米市南町
野村 基之	//	東久留米市八幡町
伊藤 賢一	商工業者	東久留米市東本町
篠宮 宣典	//	東久留米市学園町
石坂 圭	//	東久留米市幸町
齋藤 正人	//	東久留米市八幡町
栗原 和史	//	東久留米市東本町
篠原 康明	有識者	（財）都市みらい推進機構企画調整部長
渡邊 恭子	アドバイザー	(株)プラスワン・ルネ国際研究所代表取締役
吉川 光彦	事務局	市民部長
土屋 清	20 年 3 月まで	市民部産業振興課長
木暮 昭	20 年 4 月から	市民部産業振興課長
腰越 政男	21 年 3 月まで	市民部産業振興課農政係長
中島 哲	20 年 3 月まで	市民部産業振興課労政商工係長
渡辺 孝一	20 年 4 月から	市民部産業振興課労政商工係長

平成 21 年度東久留米市地域産業推進協議会 名簿
平成 21 年 4 月～平成 22 年 2 月

高橋 重雄	農業者	東久留米市中央町
遠藤 清美	//	東久留米市南町
伊藤 賢一	商工業者	東久留米市東本町
齋藤 正人	//	東久留米市八幡町
小山 秀男	鉄道運輸関係	西武鉄道（株）鉄道本部スマイル&スマイル部長
篠原 康明	有識者	（財）都市みらい推進機構企画調整部長
渡邊 恭子	アドバイザー	（株）プラスワン・ルネ国際研究所代表取締役
土屋 清	事務局	市民部長
木暮 昭	//	市民部産業振興課長
廣瀬 明子	//	市民部産業振興課労政商工係長
櫻井 康	//	市民部産業振興課農政係長

東久留米市地域産業推進協議会企画運営幹事会名簿
平成 21 年 4 月～平成 22 年 2 月

高橋 重雄	農業者	東久留米市中央町
遠藤 清美	//	東久留米市南町
野村 基之	//	東久留米市八幡町
伊藤 賢一	商工業者	東久留米市東本町
篠宮 宣典	//	東久留米市学園町
石坂 圭	//	東久留米市幸町
齋藤 正人	//	東久留米市八幡町
栗原 和史	//	東久留米市東本町
篠原 康明	有識者	（財）都市みらい推進機構企画調整部長
渡邊 恭子	アドバイザー	（株）プラスワン・ルネ国際研究所代表取締役
土屋 清	東久留米市	市民部長
木暮 昭	//	市民部産業振興課長
事務局	廣瀬 明子	市民部産業振興課労政商工係長
//	櫻井 康	市民部産業振興課農政係長

東久留米市地域産業推進協議会
東久留米市地域産業推進協議会企画運営幹事会
開催日

第 1 回	平成 2 0 年 2 月 1 3 日	第 13 回	平成 2 1 年 3 月 2 7 日
第 2 回	平成 2 0 年 4 月 1 8 日	第 14 回	平成 2 1 年 5 月 1 1 日
第 3 回	平成 2 0 年 5 月 8 日	第 15 回	平成 2 1 年 6 月 2 9 日
第 4 回	平成 2 0 年 5 月 2 6 日	第 16 回	平成 2 1 年 7 月 2 8 日
第 5 回	平成 2 0 年 7 月 1 日	第 17 回	平成 2 1 年 8 月 1 7 日
第 6 回	平成 2 0 年 8 月 8 日	第 18 回	平成 2 1 年 9 月 2 8 日
第 7 回	平成 2 0 年 9 月 2 日	第 19 回	平成 2 1 年 1 0 月 2 3 日
第 8 回	平成 2 0 年 1 0 月 1 日	第 20 回	平成 2 1 年 1 2 月 1 5 日
第 9 回	平成 2 0 年 1 0 月 3 0 日	第 21 回	平成 2 2 年 1 月 1 2 日
第 10 回	平成 2 0 年 1 1 月 1 9 日	第 22 回	平成 2 2 年 2 月 8 日
第 11 回	平成 2 0 年 1 2 月 2 5 日		
第 12 回	平成 2 1 年 2 月 1 2 日		

◎柳久保小麦事業部会開催日

第 1 回	平成 2 0 年 1 1 月 2 8 日	第 7 回	平成 2 1 年 7 月 1 6 日
第 2 回	平成 2 0 年 1 2 月 1 1 日	第 8 回	平成 2 1 年 8 月 4 日
第 3 回	平成 2 1 年 2 月 1 2 日	第 9 回	平成 2 1 年 1 0 月 2 2 日
第 4 回	平成 2 1 年 3 月 1 7 日	第 10 回	平成 2 1 年 1 1 月 1 7 日
第 5 回	平成 2 1 年 5 月 2 8 日	第 11 回	平成 2 2 年 1 月 2 1 日
第 6 回	平成 2 1 年 6 月 1 1 日		

◎梅ワイン事業部会開催日

第 1 回	平成 2 0 年 6 月 1 8 日	第 7 回	平成 2 1 年 8 月 3 1 日
第 2 回	平成 2 0 年 9 月 2 5 日	第 8 回	平成 2 1 年 9 月 9 日
第 3 回	平成 2 1 年 4 月 1 4 日	第 9 回	平成 2 1 年 1 0 月 1 9 日
第 4 回	平成 2 1 年 6 月 5 日		
第 5 回	平成 2 1 年 7 月 8 日		
第 6 回	平成 2 1 年 8 月 5 日		

◎七福神事業部会開催日

第 1 回	平成 2 0 年 1 0 月 2 4 日	第 7 回	平成 2 1 年 1 1 月 1 1 日
第 2 回	平成 2 0 年 1 1 月 2 7 日	第 8 回	平成 2 1 年 1 2 月 9 日
第 3 回 (勉強会)	平成 2 0 年 1 2 月 2 3 日	第 9 回 (勉強会)	平成 2 1 年 1 2 月 1 1 日
第 4 回	平成 2 1 年 8 月 2 8 日	第 10 回 (説明会)	平成 2 1 年 1 2 月 2 6 日
第 5 回 (勉強会)	平成 2 1 年 9 月 1 1 日	第 11 回 (反省会)	平成 2 2 年 1 月 1 8 日
第 6 回	平成 2 1 年 1 0 月 2 0 日		

◎くるめナビ事業部会開催日

第 1 回	平成 2 0 年 8 月 1 8 日	第 4 回	平成 2 0 年 1 0 月 2 2 日
第 2 回	平成 2 0 年 8 月 2 7 日	第 5 回	平成 2 0 年 1 2 月 1 5 日
第 3 回	平成 2 0 年 9 月 1 2 日		

東久留米市地域産業推進協議会設置要綱

(設置)

第 1 産業振興事業の具体的な実施にあたり、各関係機関、団体等が相互のつながりを強化し、協働事業として推進するため、東久留米市地域産業推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(定義)

第 2 この要綱において「産業振興事業」とは、農業及び商工業のほか、東久留米市(以下「市」という。)の資源を生かした観光、教育、文化及びスポーツ事業等を包括し、かつ、産業振興事業の実施により市内農業及び商工業者の事業が活性化することをいう。

(所掌事項)

第 3 協議会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 市の産業振興事業の実施に関すること。
- (2) 前号のほか、市の産業振興に必要な事項。

(組織)

第 4 協議会は、会長及び委員をもって組織する。

- 2 会長は、東久留米市長(以下「市長」という。)をもって充てる。
- 3 会長は、会務を総理する。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。
- 5 委員は、別表 I に掲げる者で構成する
- 6 協議会の委員の総数は 7 人以内とする。
- 7 協議会の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(統括代表及び副代表)

第 5 協議会は、委員のうちから、統括代表及び副代表を互選する。

- 2 統括代表は、会議の議長となる。
- 3 副代表は、統括代表を補佐し、統括代表に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 協議会は、会長が招集し、委員の過半数の出席により成立する。

- 2 協議会の議事は、出席委員の過半数により決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 会議は原則公開するものとする。ただし、協議会に諮り、公開しないことができる。
- 4 協議会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席をさせて意見を聴くことができる。

(企画運営幹事会)

第 7 協議会に企画運営幹事会を置く。

- 2 幹事会は、次に掲げる事項を所掌する。
 - (1) 協議会の総務及び会計
 - (2) 市が行う産業振興事業の企画立案の支援
 - (3) 第 9 で規定する各事業部の連携及び調整
- 3 幹事会が必要と認めるときは、各事業部及び委員以外の者を出席させて意見を聴くこ

とができる。

4 幹事会は、協議会に幹事会の決定事項等について報告する。

(組織)

第8 幹事会の委員は、別表Ⅰに掲げるもののほか（ただし、西武鉄道運輸部長を除く。）

別表Ⅱに掲げるもので構成する。

2 幹事会の委員は12名で以内とする。

3 幹事会の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(幹事長及び副幹事長)

第9 幹事会に幹事長及び副幹事長を置き、委員のうちから互選する。

2 幹事長は、会務を総理する。

3 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときは、その職務を代理する。

(事業部)

第10 幹事会に事業部を置く。

2 事業部は、産業振興の事業の区分ごととする。

3 各事業部は、既存産業の発展及び新たな産業の創出について考慮し、事業の推進に努めるものとする。

(庶務)

第11 協議会の庶務は、市民部産業振興課において行う。

(委任)

第12 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が別に定める。

付 則

この訓令は、平成20年2月13日から施行する。

◎資料：柳久保小麦

平成 21 年 6 月 24 日

産業労働局

中小企業地域資源活用促進法における基本構想の変更について

東京都産業労働局では、「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律（中小企業地域資源活用促進法）」(平成 19 年法律第 39 号)第 5 条第 1 項の規定に基づき、「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想(基本構想)」を変更したのでお知らせします。

中小企業地域資源活用促進法は、各地域の強みである農林水産品、鉱工業品及びその生産技術、観光資源の 3 類型からなる地域産業資源を活用して新商品の開発等に取り組む中小企業を支援し、地域経済の活性化を図ることを目的として、平成 19 年 6 月 29 日に施行された法律です。

同法に基づき、東京都は昨年 7 月に基本構想を策定したところですが、今回、新たな地域産業資源の追加や対象地域の拡大を行うための、同構想を変更・申請し、経済産業大臣ほか主務大臣の認定を受けました。

この基本構想の内容をもとに、中小企業が地域資源を活用した具体的な事業計画を策定・申請し、国の認定を受けると、試作品開発や販路開拓に対する補助をはじめとする総合的な支援が受けられることとなります。

【基本構想に関する問合せ先】

東京都産業労働局商工部地域産業振興課

電話番号：03-5320-4755

【制度全般に関する問合せ先】

関東経済産業局産業部経営支援課

電話番号：048-600-0332

【中小企業者の具体的な事業計画に関する相談・問合せ先】

- ・独立行政法人中小企業基盤整備機構関東支部（関東地域支援事務局）

電話：03-5470-1640

- ・財団法人東京都中小企業振興公社総合支援部総合支援課

電話：03-3251-7881

地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想

東京都

1. 地域産業資源活用の促進に関する基本的な方針

(1) 東京の過去と現在、そして「10 年後の東京」

江戸開府以来 400 年以上にわたり首都として長い歴史と伝統を有する東京は、世界でも例を見ない都市機能の集中・集積を背景に、常にわが国の発展を牽引してきた。

その過程においては、大気汚染やごみの急増、道路の渋滞など、大都市特有の先鋭的な課題にたびたび直面してきたが、その都度、国や他都市を先導する取組により、局面を打開してきた。さらに先人たちのたゆまぬ努力と英知によって、世界でも屈指の成熟都市として、その確固たる地位を築いてきた。

しかし一方で、国際競争の激化による産業の停滞や少子・高齢化の進行などが、東京のみならず日本のせかいにおける存在感に影を落としている。今後の見通しでも、中国の GDP が日本を超えることが確実であることなど、このまま座して見ているだけでは衰退の道を辿る可能性が高くなってきている。

そこで、東京都は平成 18 年度に、「10 年後の東京」を策定し、都市機能や最先端技術の高密度な集積など、首都東京が持つ優位性を最大限に活かすことで変革を進め、日本を確かな再生へと導いていく道筋を明らかにするとともに、これをバックボーンとして産業振興における施策展開の方向性を示すため、「産業振興基本戦略」(以下「基本戦略」という。)を策定し、翌 19 年度には「基本戦略」を着実に具体化するために 3 年間(平成 20 年度～平成 22 年度)で重点的に推進すべき産業施策と主な取組を「東京都産業振興指針」としてとりまとめた。

日本を象徴する課題を数多く抱える東京には、それらを解決する新しい産業やビジネスを創造していく役割が期待されている。「基本戦略」は東京の強みを活かした技術と経営の革新により、東京の産業を新たなステージへと飛躍させることによって、東京ひいては日本をさらに魅力的で活力溢れる都市、国家へと発展させることを目指している。

(2) 東京の産業の特徴

＊本文略 (本文内容は東久留米市市民部産業振興課へお問合せ下さい)

(3) 地域産業資源指定及び活用への支援に当たっての基本的な考え方

＊本文略 (本文内容は東久留米市市民部産業振興課へお問合せ下さい)

2. 地域産業資源の内容

東京都において、中小企業による事業を促進する意義があると考えられる地域産業資源は以下のとおりである。

(1)農林水産物（28 種類が認定されている中、柳久保小麦もその1つとして選ばれている）

名称	地域産業資源に係る地域
柳久保小麦	東久留米市

(2)鉱工業品又は鉱工業品の生産に係る技術（東久留米市は該当品なし）

(3)文化財、自然の風景地、温泉その他の地域の観光資源

(162 箇所が認定されている中の1つ)

名称	地域産業資源に係る地域
南沢緑地	東久留米市

3. 地域産業資源を用いて行う地域産業資源活用事業を促進することにより当該地域産業資源に係る地域の経済の活性化を推進する方策

＊本文略（本文内容は東久留米市市民部産業振興課へお問合せ下さい）

梅ワイン資料：

平成 21 年 9 月 18 日土曜日開催の
「梅ワイン事業運営移行式」及び「梅ワイン解禁日」に関する記事掲載

タウン通信

9月18日は「梅うふふ」解禁日

東久留米の梅ワインに新展開

東久留米市は、地域振興を狙いに3年前に開発した梅ワイン「梅うふふ」の解禁日を、毎年9月18日にする決めた。この3年間、新酒の販売を9月に行ってきたこともあり、「くるめ、いい」

い、8「ワイン」の語呂合わせで、同日にしたもの。また、これまで市設置の地域産業推進協議会が事業主体となってきたが、今後は酒販組合に移行する。同ワインは市内産の梅100%で酒造。

朝日新聞

東久留米の梅 ワインで

「梅うふふ」きょう発売

東久留米市産の梅で作ったワイン「梅うふふ」が18日から市内で販売される。「くるめ(9)いい(1)ワイン(8)」の語呂合わせで今年から9月18日を販売の「解禁日」とし、東久留米酒販組合がPRに力を入れるという。

ワインは500ミリリットル入り880円。市内19の酒店で販売される。市地域産業推進協議会が06年から取り組んできたが、今回から酒販組合に事業主体を移した。今後、FM西東京でCMを流すなどして販売促進を図るという。

21.9.18朝

9くるめ 1いい 8ワイン は解禁日

月刊リベラルタイム

LT-PLAZA
Information

東久留米市が「梅ワイン」の事業運営を地元酒販組合に移行

東久留米市は、地域振興を狙いに3年前に開発した梅ワイン「梅うふふ」の解禁日を、毎年9月18日にする決めた。この3年間、新酒の販売を9月に行ってきたこともあり、「くるめ、いい」

い、8「ワイン」の語呂合わせで、同日にしたもの。また、これまで市設置の地域産業推進協議会が事業主体となってきたが、今後は酒販組合に移行する。同ワインは市内産の梅100%で酒造。

漫画家・清つねお氏主催の「絵画展グランプリ2009」開催

◎くるめナビ資料　くるめナビ　アンケート集計結果　「掲載者分」
平成20年4月8日

1 アンケート回答数 35通（発送数99通） 回答率35.4%

2 設問ごとの集計

①問1 掲載料(広告料)について

- ア 高いと思う 10人（28.6%）
- イ 普通だと思う 23人（65.7%）
- ウ 安いと思う 2人（5.7%）

②問2 掲載後の効果について

- ア 相当の効果があつた 1人（2.9%）
- イ 多少効果があつた 9人（25.7%）
- ウ 掲載しても変わらなかった 25人（71.4%）

③問3 今後の発行について

- ア 引き続き発行してほしい 15人（42.9%）
- イ 廃刊したほうが良い 3人（8.5%）
- ウ どちらとも言えない 17人（48.6%）

④問4 引き続き発行するにあたっての意見

- ・このまま続けて良い
- ・市内のことを知ることができた
- ・各店舗の顔が見えたほうが安心感と責任感が出るのでは、続けることは必要
- ・価格破壊につながる安売りの店の掲載は遠慮してほしい
- ・クーポン券と地図の所にも住所、TEL を載せたほうが良い
- ・市役所ロビーなどにくるめナビを掲示するなど積極的にPR をしてほしい
- ・掲載店舗数が少なすぎるように思う、もっとたくさんの店舗があるはず
- ・ただ商店を掲載するだけでなく、顧客に興味を持ってもらうための「企画もの」の掲載が必要
- ・発行部数を増やしてほしい
- ・いままでどおりで良い

⑤問5 廃刊したほうが良いと思う理由

- ・イオンの進出により流れが変わる可能性が大、従ってくるめナビの在り方を再検討する必要がある
- ・毎年出版する効果がない、隔年出版にすると一考しては
- ・東久留米は他にタウン誌が多すぎる、広告の付き合いにも経費がかかる
- ・内容を再考すべき、配布先も考えるべき、活用されなければ意味なし
- ・付き合いで掲載しており断れない

◎くるめナビ資料　　くるめナビ アンケート集計結果　「抽出事業者分」

平成20年4月8日

1 アンケート回答数 15通（発送数112通） 回答率13.4%

2 設問ごとの集計

①問1　くるめナビをこれまで年1回、計4回発行したことをご存知ですか

ア 知っている 7人（46.7%）

イ 知らない 8人（53.3%）

②問2　知っているが

ア もともと掲載する考えがない 3人（20.0%）

イ 掲載しても効果があると思えない 1人（6.7%）

ウ 多少金額が安ければ掲載した 1人（6.7%）

エ 掲載したくても広告料が払えない 2人（13.3%）

オ 回答なし 8人（53.3%）

③問3　効果があると思えない理由はなんですか（自由意見）

- ・チラシなど配布しても効果がないと聞いている、自分でお客様の立場で考えてもわからない
- ・詳しいことはわからないが徐々に勉強したい、後日ホームページで見ました
- ・どんなものか分からない、知らない

④問4　多少金額が安ければ掲載しても良いについてのご意見等（自由意見）

- ・半額ぐらいなら掲載したい

◎七福神資料（七福神めぐりに向けた勉強会関係資料）

文化財講演会開催状況（＝東久留米市歴史探訪勉強会）

●第一回文化財講演会

- ・日 時 平成20年12月23日（祝）午前10時～11時半
- ・場 所 東久留米市役所7階701会議室
- ・参加者 68名
- ・講 師 山崎 丈 氏（東久留米市教育委員会郷土資料室学芸員）
- ・テーマ 「東久留米市の歴史と文化財」
- ・内 容 開運 東久留米七福神めぐりをより楽しむため、市の名前の由来や市の歴史と、七福神にまつわる寺院や文化財についての講演

●第二回歴史探訪勉強会（文化財講演会から名称を変更）

- ・日 時 平成21年9月11日（金）午後6時～7時半
- ・場 所 東久留米市役所7階701会議室
- ・参加者 26名
- ・講 師 山崎 丈 氏（東久留米市教育委員会郷土資料室学芸員）
- ・テーマ 産業振興のルーツを訪ねて「森と水のめぐみのまち東久留米」－縄文時代－
- ・内 容 東久留米市の文化の基本になっている縄文時代にスポットを当て、縄文文化の成立、定住生活と新しい環境の創造、縄文文化の特質など、産業振興のルーツを縄文文化の歴史をひも解きながら探る

●第三回歴史探訪勉強会

- ・日 時 平成21年12月9日（水）午後6時～7時半
- ・場 所 東久留米市役所7階701会議室
- ・参加者 28名
- ・講 師 山崎 丈 氏（東久留米市教育委員会郷土資料室学芸員）
- ・テーマ 産業振興のルーツを訪ねて「森と水のめぐみのまち東久留米」
－弥生～奈良・平安時代－
- ・内 容 自然物に頼る生活から、計画的に食料を生産する生活（生産経済）への移行、金属器の使用、集落を監督する首長と農民層という階級分化の進行など、日本列島における歴史の転換点となった時代とされる弥生時代から奈良・平安時代にスポットを当て、産業振興のルーツを各時代の歴史をひも解きながら探る

◎七福神資料

七福神めぐりチラシ表面 (平成 22 年 1 月 9 日開催 第四回七福神めぐり)

2010年 開運 東久留米七福神めぐり

新春に幸せ祈願のウォーキング! SEIBU

新春スタートの開運ウォーキングです。さあ、一年の幸せと健康を願って七福神めぐりを楽しんでください。

1/9(土)  **Point 50**

●歩行距離: 約8km
●歩行時間: 約2時間

※歩行時間には、参拝時間や休憩時間等は含まれておりません。

スタート: 東口中央公園(東久留米駅から徒歩約3分)
受付時間: 10時～11時30分(雨天決行・荒天中止)
参加費: 無料



東久留米駅(東口) ... 東口中央公園(スタート) ... 浄教院(大黒天尊) ... 宝泉寺(弁財天) ... 多聞寺(毘沙門天) ... 米津寺(布袋尊) ... 大圓寺(福祿寿尊) ... 東久留米市役所(ゴール) ... 東久留米駅(西口)

自由参加



開運招福
東久留米七福神グッズも集めてみよう。

●御朱印色紙 御朱印(1尊) 300円
(色紙は御朱印の料金に含まれております。)

●七福神御尊像 (1体) 500円
※大圓寺にて台座付きの御尊像をお求めください。
(台座は御尊像の料金に含まれております。)

西武線の七福神をめぐって、祈って、いいもの当てよう!

2010「新春スタンプ&クイズラリー」開催!

※くわしくは、西武線各駅で12月下旬より配布予定のパンフレットをご覧ください。

●期間: 2010年1月1日(金・祝)～31日(日)
●対象の七福神めぐり
東久留米七福神/武蔵野七福神
新宿山の手七福神/小江戸川越七福神

主催: 西武鉄道 後援: 東久留米市、JA東京みらい東久留米支店、東久留米青年会議所、東久留米市地域産業推進協議会

西武鉄道 スマイル&スマイル部
TEL.(04)2926-2222
(土日と年末年始を除く9時～17時30分)

西武鉄道お客さまセンター
TEL.(04)2996-2888
営業時間: 平日9時～19時 土日9時～17時
年中無休(12/30～1/3を除く)

お客さまの“声”をお聞かせください。
西武グループの皆さまへ、メッセージをお送りください。
URL: <http://www.seibu-group.co.jp/railways/>
メニューから「ご意見・ご要望」をお選びください。

西武鉄道ホームページ
西武鉄道 検索
<http://www.seibu-group.co.jp/railways/>

でかける人を、ほほえむ人へ。 西武グループ

- 52 -

◎七福神資料（七福神めぐりチラシ裏面）

開運 東久留米七福神めぐり

東久留米市の七福神

七福神はインド・中国・日本の神祇の象徴として集まれ、古くから七福神めぐりの信仰があらわれた。東久留米市には7つの寺院に七福神が祀られ、めぐりめぐり、一日で七福神めぐりができ、七福神めぐりには御門氏など古くからの御門氏、広く信仰を集めてきた。とくに正月に七福神が廻る御門氏や寺院に詣でると、七つの御門氏から、いまでも多くの参拝者が訪れます。また、訪れた一年の辛酉と健康を願って、東久留米市七福神めぐりウォークに参拝して参拝者の。

多聞寺（毘沙門天）

鎌倉時代の創建といわれる真言宗の寺院です。嘉永二年(1849)に造られた毘沙門天の立派な見事な彫刻で知られ、建造物としては市内で唯一の彫刻文化財です。

米津寺（布袋尊）

江戸時代初期に米津家の菩提寺として創建された東久留米の寺院で、東久留米市域では唯一の大名菩提寺あり、4人の墓下を祀る菩提寺が建てられています（菩提寺史略）。

浄牧院（大黒天神）

徳川時代の創建で、市域から昔ながらの町家の雰囲気で、江戸時代の浄牧院や浄水院の敷地と寺域を山頂大黒天神の力やのよもあつた。

宝泉寺（弁財天）

天保10年(1839)に、徳川幕府の御門氏十五代子孫（由緒正文化財）が祀られ、門前に石灯籠が立つる菩提寺の敷地と寺域を山頂大黒天神の力やのよもあつた。

大國寺（恵比寿尊・福祿壽尊・寿老尊）

大國寺の古刹で、東久留米市域から昔ながらの町家の雰囲気で、門前に石灯籠が立つる菩提寺の敷地と寺域を山頂大黒天神の力やのよもあつた。

大國寺

恵比寿尊・福祿壽尊・寿老尊

米津寺

布袋尊

多聞寺

毘沙門天

2010開運東久留米七福神めぐり

お名前 _____ 自宅番地 _____ 電話番号 _____

※お申し込みいただいたお名前が、イベントのご案内の案内に活用させていただきます。

主催：西武鉄道 後援：東久留米市、JA東京みらい東久留米支店、東久留米市青年会連合、東久留米市地域産業振興協議会

SEIBU

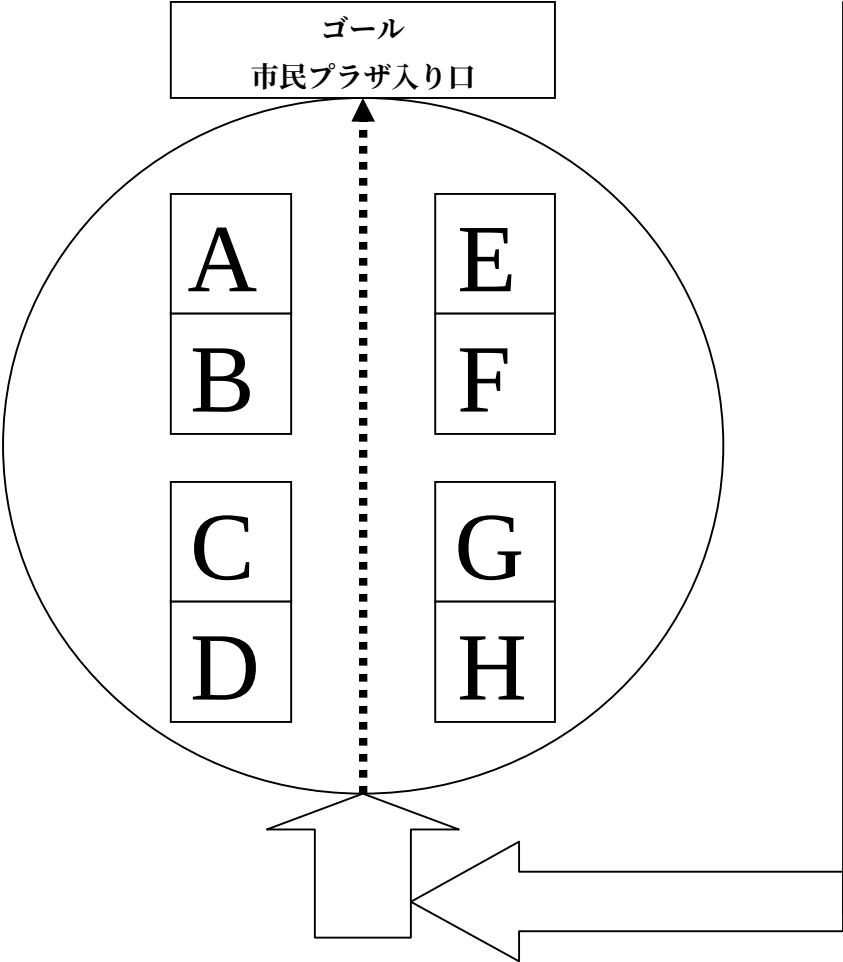
◎七福神資料

七福神めぐりの誘導関係資料

	誘導員場所	誘導員	誘導方法	時間
10 時	駅東口ロータリー角	西武鉄道・酒販組合	東口中央公園へ誘導	
	東口中央公園スタート	西武鉄道		0 分
②	浄牧院通り交差点	酒販組合	右折移動	↓
	浄牧院	大黒天尊		9 分
③	神山大橋先信号	青年会議所	変則交差点で信号に注意	↓
④	宝泉寺前信号	青年会議所	上り坂・カーブに注意	↓
	宝泉寺	弁財天		12 分
⑤	神山バッチングセンター前	青年会議所	右方向へ誘導、信号注意	↓
⑥	神宝大橋手前合流地点	青年会議所	右から合流道路あり、車注意	↓
⑦	神宝大橋	青年会議所	左から合流道路あり、車注意	↓
⑧	新落合橋	市民ボランティア+職員	信号無横断道路、危険区域	↓
⑨	落合橋	シルバー人材センター	道路横断時注意	↓
	多聞寺	毘沙門天	甘酒	45 分
⑩	毘沙門橋	市民ボランティア+職員	道路横断時注意、道順注意	↓
⑪	都営中央町二丁目団地	シルバー人材センター+職員	中央公民館方面に誘導	↓
⑫	セブン・イレブン前交差点	市民ボランティア	信号あり、道路横断時注意	↓
⑬	華山楼前交差点	市民ボランティア	JA 方面に左折誘導	↓
	JA 新鮮館	JA 東京みらい	休憩所(甘酒)設置・野菜販売	↓
⑭	米津寺手前交差点	シルバー人材センター	信号あり、道路横断時注意	↓
⑮	米津寺入口	シルバー人材センター	入口は目立たない	↓
	米津寺	布袋尊		23 分
⑯	米津寺出口	シルバー人材センター	左方向へ誘導	↓
⑰	クリーニング前交差点	職員	信号あり、道路横断注意	↓
⑱	落馬橋	職員	黒目川沿い右折誘導	↓
⑲	坂本橋	職員	黒目川横断誘導	↓
⑳	曲橋	職員	左折誘導、車多し注意	↓
	大圓寺＝3 尊	恵比寿尊、福祿尊、寿老尊	豚汁・甘酒・野菜販売	23 分
㉑	かるがも富士ヶ丘商栄会六光デンキ角	職員	右折誘導、駅方面に行かぬよう注意	↓
㉒	タイヤ館前	手打ちうどんの会	右折誘導、順路注意	↓
㉓	志乃前交差点	手打ちうどんの会	左折誘導、ヨーカドー側歩行、車注意	↓
㉔	ゴール市役所	西武鉄道・青年会議所・職員	ゴールへ誘導、参加賞配布	10 分

◎七福神資料

平成 22 年 1 月 9 日 ゴール商業者配置図



ま
ろ
に
え
富
士
見
通
り

出店者名		責任者	内 容
A	ひがしくるめ 手打ちうどんの会	三沢辰雄	柳久保うどん 他
B	和菓子処いせや	中村敏行	柳久保小麦饅頭 他
C	三沢かご店	三沢美恵子	竹製品
D	採れたて野菜	遠藤清美	野菜
	//	野村基之	野菜
E	ミナト工業	湊順子	ちりめん細工
F	東久留米酒販組合	川村征宏	梅ワイン・清酒、かり んとう 他
G	プチ・フル	宮沢ロミ	柳久保小麦パン 他
H	うつわ&カフェかくしち	小林のぶえ	陶器、コーヒー、クッキー他

東
久
留
米
駅



◎七福神資料

開運！東久留米七福神めぐり反省会

日時： 平成22年1月18日（月） 午後7時～9時 場所： 市役所6階602会議室
出席者：西武鉄道株式会社、地域産業推進協議会七福神事業部、出店者、協力者、市産業振興課職員の計23名

①主催者からの意見・要望等

- ・天候にも恵まれ3,530名もの参加があった。
- ・お客様サービスセンターに「おもてなしに感動した」との連絡があった。
- ・緊急時の連絡網をつくり、情報連絡を密にする。

②出店商業者からのご意見と今後のご要望等

（ご意見）

- ・市役所屋外ひろばの出店の配置を変更し回遊性ができ、売上増につながった。
- ・例えば、つるし雛を増やすなど、さらに華やかにしたい。
- ・参加者は汗をかいており、温かい飲み物よりも冷たい飲み物が売れそう。
- ・早々と完売してしまったブースもあったが、片付けず残っていたのが良かった。
- ・ゴール（市役所）から東久留米駅への道順を聞かれる参加者が多かった。
- ・ボランティアの方々のおもてなし精神は参加者に伝わったと思う。

（今後のご要望等）

- ・小さくて買いやすいものが売れ行きも良いようだ。
- ・柳久保小麦は、既取扱店のみでなく新たな商業者で取り扱い希望者もいる。ぜひ、生産者を交えてほしい。

③誘導協力者からのご意見と今後のご要望等

（ご意見）

- ・参加者からねぎらいの声をかけてもらった。
- ・多聞寺周辺で、南沢水辺公園の方へ誘う人がいるなど、誘導が交錯して多聞寺を回らずに米津寺まで来てしまってから気づきなかには戻る人もいて分かりにくかった。
- ・受付を通らず、途中から、あるいは逆回りに回る人もいたので、チラシを多めに誘導協力者に渡してほしい。
- ・「おいしい食べ物屋はどこですか」「水草の名前は」など聞かれたのでご案内できないのか。

（今後のご要望等）

- ・「左側通行」など参加者のマナーを徹底図る。広報ひがしくるめに掲載する際に文言を入れる。
- ・寒い時期の誘導ボランティアなので、もっと若いボランティアを募ってほしい。
- ・交替要員は必要でありもっと多くのボランティアに協力してもらいたい。
- ・距離を聞かれることが多かったので、マップに距離とおおまかな所要時間を入れてほしい。
- ・「米津寺」など固有名詞の読み仮名をよく聞かれたので、次回はルビをふってほしい。
- ・反省点は、次回へ引き継いでほしい。
- ・混雑してお寺でスタンプを押せなかったという苦情を多く受けた。お寺に受付を広くしてもらうなど協力をお願いできないか。

④次回に向けたアイデア等

- ・出店者の販売物が売れ残った場合の対処についてアイデアを出す。
- ・毎回同じ回り方ではなく、来年は逆回りにはどうか。



開運東久留米七福神めぐり反省会の様子

◎七福神資料 第三回～第五回までの資料

○ 第三回東久留米七福神めぐりの経緯と結果

- 日時 : 平成 19 年 1 月 6 日(土)10 時～15 時 (水雨天気)
- 主催 : 西武鉄道
- 後援 : 東久留米市、東久留米市地域産業振興委員会
- 協力 : J A 東京みらい東久留米支店
東久留米市商工会
東久留米青年会議所
- コース : スタート・東久留米駅(東口) 浄牧院(大黒天尊)
宝泉寺(弁財天) 多聞寺(毘沙門天)
米津家(布袋尊) 大圓寺(寿老尊・福緑寿尊・恵比寿尊)
ゴール・東久留米市役所(屋外ひろば・屋内ひろば)
- 告知・広告 : 西武鉄道駅全駅などに 7 万部ポスターなど配布
車内中吊広告(1300 車両)にポスター、チラシ
ホームページ掲載
東久留米市広報(12 月 15 日号掲載)
ポスターの掲示(市・公共施設など 10 枚程度)

受付場所 : 東久留米駅改札口
受付時間 : 午前 10 時～11 時
受付総数 : 375 名
参加費 : 無料

参加者記念品 : あり
ゴール場所 : 東久留米市役所 屋外ひろば
ゴール受付時間 : 午後 3 時まで
抽選会実施 : ゴールで参加者対象に抽選会開催
物産展出店者 : 1. 東久留米市営農振興会(地場野菜)
2. むさし梅月 (柳久保まんじゅう等)
3. プチ・フル (柳久保小麦パン等)
4. テラス・シャモア (洋菓子等)
5. 酒工房おの (酒の販売)
6. 三沢かご店 (竹林公園の竹使用竹細工等)
7. 山越屋豆腐店 (自家製豆腐等)
8. ひがしくるめ手打ちうどんの会(手打ち生うどん販売)

役割 : 1. 寺院の案内(5 名)
2. 交通整理 (6 箇所 9 名)
①神山大橋 ②宝泉寺 ③新落合橋 ④多聞寺
⑤中央町第 3 都営住宅 ⑥かるがも富士ヶ丘商栄会
3. 物産展などのテント設営
4. 抽選景品の確保
①「光と交響詩」ハガキシリーズ 20 枚 : 市提供
②ふるさと絵葉書 30 枚 : 市提供
③むさしのうどん 10 個 : JA 東京みらい提供

- | | |
|-------------|--------------|
| ④梅ワイン | 5 本：市提供 |
| ⑤柳久保かりんとう | 10 袋：市提供 |
| ⑥地場野菜詰め合わせ | 10 袋：営農振興会協力 |
| 以上 85 個程度用意 | |

- 反省点
- ： 1. 西武鉄道の恒例事業に企画連携イベントとして、市としても盛り上げなければならない。
 2. 集客できる資源であるにも係わらず、活用していない
 3. 観光産業の一貫として位置づけ、回遊路の整備や管理を行う必要がある
 4. 商店街、商店との連携ができていない。
 5. 市民の関心が浅い。
 6. しないPRが徹底しない。
 7. 長時間、市内に留まってもらい、買物を通して、お金を落としてもらう仕組づくりができていない。

○ 第四回東久留米七福神めぐりの経緯と結果

■日時 : 平成20年1月12日(土)9時～16時(天候：雨)

■主催 : 西武鉄道・東久留米市

■後援 : 東久留米市地域産業振興委員会

■協力 : J A東京みらい東久留米支店

東久留米市商工会

東久留米青年会議所

■コース

: 東久留米駅(東口)

→浄牧院(大黒天尊)

→宝泉寺(弁財天)

→多聞寺(毘沙門天)

→米津家(布袋尊)

→大圓寺(寿老尊・福縁寿尊・恵比寿尊)

→東久留米市役所(屋外ひろば)

■告知・広告

: 西武鉄道駅全駅などに7万部ポスターなど配布
車内中吊広告(1300車両)にポスター、チラシ
ホームページ掲載

東久留米市広報(12月15日号掲載)

ポスターの掲示(市・公共施設など10枚程度)

受付場所 : 東久留米駅東口

受付時間 : 午前10時～11時30分

受付総数 : 1,300名

参加費 : 無料

参加者記念品 : あり

ゴール場所 : 東久留米市役所 屋外ひろば

ゴール受付時間 : 午後3時まで

抽選会実施 : ゴール後、参加者を対象に抽選会開催

物産展出店者 : 1. 東久留米市地場産交流組合 (地場野菜×2店舗)

役割	2. プチ・フル	(柳久保小麦パン等)
	3. 酒工房おおの	(酒の販売)
	4. 三沢かご店	(竹林公園の竹使用竹細工等)
	5. ひがしくるめ手打ちうどんの会	(手打ち生うどん販売)
	6. 東久留米酒販組合	(酒の販売)
役割	: 1. 寺院の案内(5ヶ所5名)	
	①浄牧院×1人	
	②宝泉寺×1人	
	③多聞寺×1人	
	④米津寺×1人	
	⑤大圓寺×1人	
	2. 交通整理 (6箇所8名)	
	①神山橋×2人	
	②宝泉橋×1人	
	③新落合橋×2人	
	④毘沙門橋×1人	
	⑤中央町第3都営住宅×1人	
	⑥かるがも富士ヶ丘商栄会×1人	
	3. 物産展などのテント設営	
	4. 景品の確保	
	①七福神ポストカード(5枚組)	100セット:市提供
	②むさしのうどん	10セット:JA東京みらい提供
	③梅ワイン	10本:市提供
	④柳久保かりんとう	20袋:市提供
	⑤地場野菜詰め合わせ	20袋:地場産交流組合協力
	以上160セット程度用意	

○ 第五回七福神めぐりの経緯と結果

■日時:平成21年1月10日 土曜日 午前10時~15時

■主催:西武鉄道株式会社

■後援:東久留米市、JA東京みらい東久留米支店、東久留米青年会議所、東久留米市地域産業推進協議会 等

■告知:西武鉄道株式会社

*西武鉄道の全駅に7万部ポスターなど配布

*鉄道車両内中吊り広告(1300車両)

*ホームページ掲載

東久留米市

*市・公共施設などポスター掲示

＊関係寺社にポスター掲示

＊広報“ひがしくるめ”に掲載

＊文化財講演会時に口頭告知

- 受付場所 : 東久留米駅東口
- 受付時間 : 午前 10 時～11 時 30 分まで
- 参加費 : 無料
- 参加人数 : 3,270 名(当初予定は 1,200～1,500 名程度で天候次第と考えていた)
- 参加記念品 : あり
- ゴール場所 : 東久留米市役所 屋外ひろば
- ゴール受付時間: 午後 3 時まで
- コースと人員

受付 : 東久留米駅東口 2 人



神山橋 2 人



浄牧院 ・ 大黒天尊 1 人



宝泉橋 1 人



宝泉寺 ・ 弁財天 1 人



新落合橋 2 人



多聞寺 ・ 毘沙門天 1 人



毘沙門橋 1 人



米津寺 ・ 布袋尊 1 人



中央町第三都営住宅 1 人



大圓寺・ 寿老尊・福緑寿尊・恵比寿尊 1 人



かるがも富士ヶ丘商栄会 1 人



ゴール: 東久留米市役所 屋外ひろば 2 人

■景品の確保

① 七福神ポストカード(5枚組)	100 セット	: 市提供
② むさしのうどん - JA 協力 -	10 セット	: JA 東京みらい提供
③ 梅ワイン	10 本	: 市提供
④ 柳久保かりんとう	20 袋	: 市提供
⑤ 地場野菜詰め合わせ	20 袋	: 地場産交流組合協力

■物産店出店 テント設営担当 (市)

- ① 東久留米市地場産交流組合
- ② プチ・フール
- ③ 酒工房おおの
- ④ 三沢かご店
- ⑤ ひがしくるめ手打ちうどんの会
- ⑥ 東久留米酒販組合



◎資料 「地域の資源再発見！シンポジウム」
シンポジウムチラシ

先着 500名限定

入場無料

直接会場へ!

東久留米市・財団法人自治総合センター主催
後援 総務省

地域の資源再発見!

～地元で生まれた自然の恵みを体感しよう～

シンポジウム

平成22年1月31日(日)




会場 東久留米市中央公民館ホール
中央町2-6-23

(交通案内) 東久留米駅西口より徒歩約10分



※お車での来場はご遠慮ください。

★
プログラム

第1部

『地域の特産品、その魅力』

講演者 山口 良一氏 プロフィール
広島県広島市基町(現、広島市中区基町)
出身。前滋賀県ヴォードビルシアター所属。
タレント、俳優、歌手、リポーター、司
会者としてマルチに活躍。1980年代初
頭に「イモ敦トリオ」の一員としてプレ
イグシ、ヒット曲もある。

山口 良一氏

★
プログラム

第2部

『地域産業推進協議会の取り組み』

基調報告者
東久留米市地域産業推進協議会幹事代表 **高橋 重雄氏**

★
プログラム

第3部

『東久留米の地域資源の活かし方』

コーディネーター
篠原 康明氏 (財)都市みらい推進機構企画調整部長

パネリスト

山口 良一氏 (タレント)	氏(地域産業推進協議会幹事代表)
高橋 重雄氏 (経営コンサルティング会社代表取締役・同協議会アドバイザー)	氏(長期総合計画基本構想審議会委員・同協議会委員)
渡邊 恭子氏 (中谷製菓(株)代表取締役社長)	

開場 午後12時30分

開会 午後1時00分

閉会 午後4時00分(予定)

定員 500名(当日先着順)

参加費 無料

手話通訳付き

お子さま保育あり
2歳児以上就学未満まで
＝事前予約制＝
(1/3より定員10名まで)

シンポジウム終了後、会場出口にて参加記念品プレゼント!!
(大人一人につき一つずつ取り残さず)

1/31(日)同日開催

展示スタンプラリー

東久留米市地域産業推進協議会の
今年度の取り組みの紹介と賞状等を表示します。

午前11:00
午後4:00

★参加には、東久留米特産品をプレゼント!
参加者には、東久留米特産品をプレゼント!

★参加方法 東久留米市中央公民館2F集会所学習室ほか

当日先着500名様に、展示スタンプラリー参加カードを配布いたします。(お一人様1枚1回限りとなります。)

すべてのブースを回って、わがまち自慢の特産品を体感してください。
当日時間内有効となります。ぜひ、アンケートにもご協力ください。
スタンプラリー参加カード配布終了後は、展示ブースとしてご覧いただけます。
飲食可能な場所は限りがございます。

お問い合わせ 東久留米市市民部産業振興課 東久留米市本町3-3-1

TEL.042-470-7743 FAX.042-470-7811
E-mail. sangyoshinko@city.higashikurume.jg.jp

特産品

わがまち自慢の特産品

東久留米

東久留米は、豊かな水と土壌に恵まれた東久留米市では、大津市近郊という立地を生かして野菜栽培や花き栽培が盛んであります。近年、食の安全や伝統的食文化を伝えるため、市内の特産品を活用した東久留米ブランドの特産品が生まれています。今回のシンポジウムでは、今までの取り組みの成果である特産品を、地元民をはじめ多くの方々に知ってもらうべく、多くの方向からご紹介していきます。

※講演者は予定どおり、数量となる場合がございます。

◎資料： 「地域の資源再発見！シンポジウム」第2部基調報告資料より
平成22年1月31日（日）実施
基調報告者：地域産業推進協議会統括代表 高橋 重雄

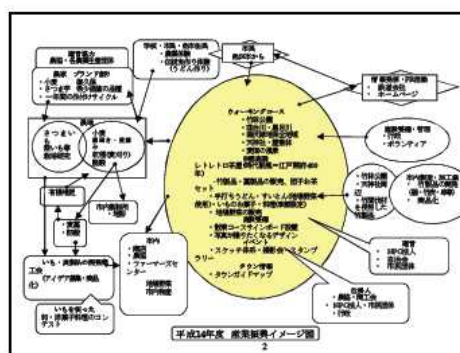
2010/1/31実施シンポジウム基調報告資料

第2部 基調報告
地域産業推進協議会の取り組み

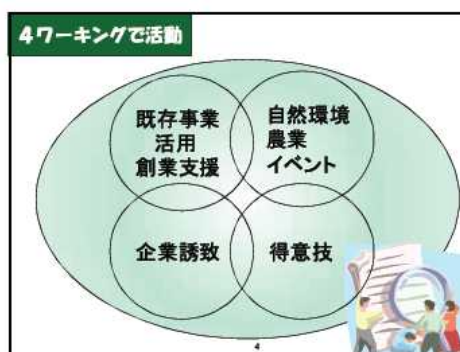


**ヒトとヒトの結び付きが
成功の秘訣**

東久留米市地域産業推進協議会
統括代表 高橋 重雄



地域産業振興会議の経緯（要約）	
平成14年度	東久留米市地域産業振興会議設立準備会 発足 * 平成14年12月 報告書提出 「元気で楽しい、出会いに溢れた東久留米をつくるために」
平成15年度	東久留米市地域産業振興会議 設立準備会の提言を受けて4つのワーキンググループで活動開始 * 平成15年10月 第一回ふれあいウォーキング 1,938名参加 * 平成15年11月 暮らし小委員会 作付け開始 * 平成16年1月 報告書提出 「地域産業振興に関する中間報告」



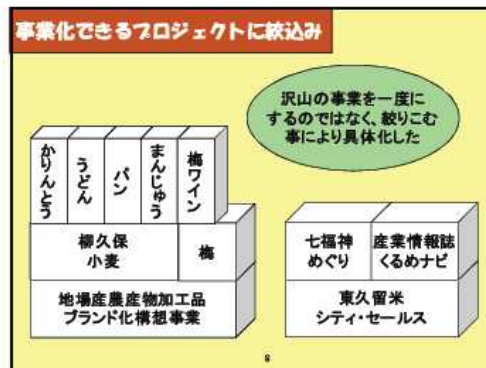
《地域産業振興会議から産業振興委員会へ移行》	
平成16年度	4ワーキンググループでプロジェクトを推進し活動 * 平成16年10月 暮らし小委員会 取組に向けて試食会 * 平成17年 3月 産業振興誌「KURUME-HAVI」発行 * 平成17年 3月 報告書提出「元気で活力ある東久留米を目指して」 * 第二回「ニッポン食育フェア」ふるさとに誇りたい食材選定に選ばれて出版（平成17年1月18日）（東京国際フォーラムにて）
平成17年度	H16年度までに実行されてきた4ワーキングプロジェクトの精査・課題抽出と継続事業実行 * 平成17年4月 第二回ふれあいウォーキング開催 241名参加 * 平成17年4月 第一回東久留米七福神めぐり開催 800名参加 * 平成17年5月 シンポジウム開催「東久留米の産業振興」 * 平成18年1月 第二回東久留米七福神めぐり開催 1,800名参加 * 産業振興誌「KURUME-HAVI」第2号発行 * 暮らし小委員会「うどん」「まんじゅう」「パティ」「かりんとう」臨時販売開始



2010/1/31実施シンポジウム基調報告資料

平成18年度	東久留米市地域産業推進事業「地場産業産物加工品ブランド化構想」からの新プロジェクト立ち上げと既存事業の推進 ★平成18年9月 梅ワイン初発売(当初は甘口のみ) ★平成18年12月 農水省交際情報誌「新往来」に梅ワインが掲載された ★平成19年1月 第三回東久留米七福神めぐり開催 375名参加 ★平成19年1月 産業情報誌「くるめナビ」第三号発行
平成19年度	地域産業振興がスタートして4年経過したことを踏まえ、各事業部を民間への「事業化」を今後の展開目標とする ★平成19年6月 梅ワインの辛口発売に向けたラベル決め ★平成19年8月 梅ワインのポスター作成 ★平成19年8月 新組織・地域産業推進協議会の立ち上げ合わせスタート ★平成20年1月 第四回東久留米七福神めぐり開催 1,300名参加

7



8

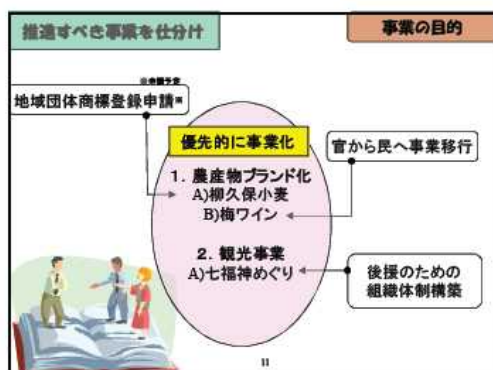
＜地域産業振興委員会から地域産業推進協議会へ移行＞

平成20年度	地域産業の次世代を担う委員会を中心に推進事業の見直し仕分けと既存推進事業の円滑化 ★平成20年12月 産業情報誌「くるめナビ」の休刊 ★平成20年12月 第一回七福神事業部事業「歴史探訪勉強会」開催 ★平成21年1月 第五回東久留米七福神めぐり開催 3,270名参加 ★梅ワイン事業の事業移行を目的とした推進 ★梅久保小麦事業の組織化を目的とした推進 ★新組織体制作りへの企画提案 ★1000人応援団構想への取り組み ★七福神めぐり事業の人材組織体制構想企画提案
--------	---

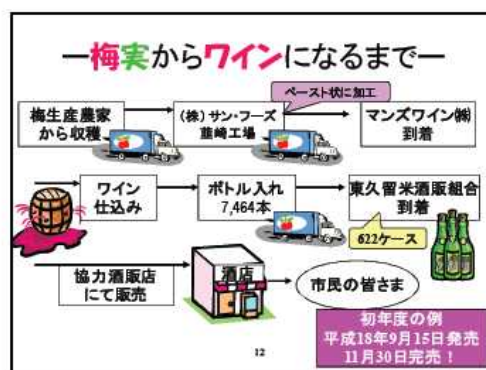
9

平成21年度	優先事業プロジェクトの推進と次組織に向けた課題の抽出と構想起草 ★平成21年9月 第二回七福神事業部事業「歴史探訪勉強会」開催 ★平成21年9月 梅ワイン事業を東久留米酒販組合に事業移行 ★平成21年12月 第三回七福神事業部事業「歴史勉強会」開催 ★平成22年1月 第六回七福神めぐり開催 3,530名参加 ★平成22年1月 シンポジウム開催「地域の資源再発見」 ★梅久保小麦＝東京都産業労働局、関東経済産業局で地域資源に認定(平成21年6月) ★梅ワイン事業部を梅事業部に変更(平成21年9月) ★梅久保小麦＝地域団体商標登録申請準備中
--------	--

10

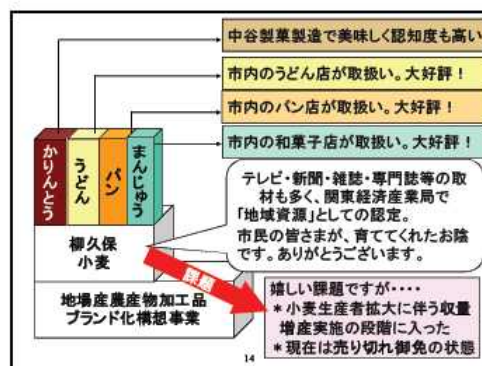
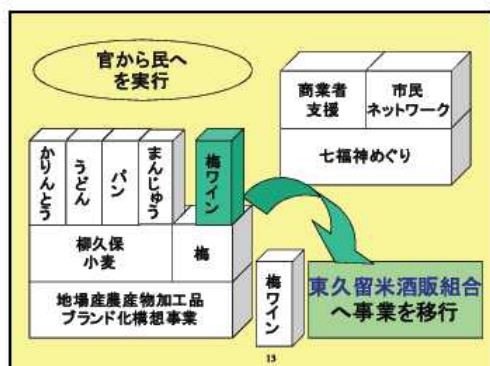


11



12

2010/1/31実施シンポジウム基調報告資料



柳久保小麦の生産量推移

年	小麦の 生産量	栽培面積	栽培農家数
平成17年	3,051kg	215アール	8戸
平成18年	2,718kg	230アール	9戸
平成19年	4,500kg	250アール	10戸
平成20年	3,900kg	250アール	10戸
平成21年	2,900kg	250アール	10戸

15

平成14年度 地域産業振興会議設立準備会
(敬称略)

- ◎委員
・神藤 栄一・佐藤 洋文・粕谷 重次・松本 誠一
・藤野 和子
- ◎会議サポート
・篠原 康明・富田 剛久
- ◎事務局
・吉川 光彦・土屋 清・飯本 忠良・中島 哲
・斉藤 昇司

16

12名

平成15・16年度 地域産業振興会議
(敬称略)

- ◎委員
・牧 英樹・高橋 重雄・則竹 浩二・穴田 史朗
・田邊 朝子・島崎 孝・在塚 茂登子・藤野 和子
・原 寛・渡邊 恭子・栗野 友之・吉野 勉
・内田 國夫
- ◎幹事
・島崎 輝昭・長嶋 洋一
- ◎会議サポート
・篠原 康明・森田 宏亮
- ◎事務局
・吉川 光彦・土屋 清・中島 哲・斉藤 昇司

17

21名

平成17年度 地域産業振興会議
(敬称略)

- ◎委員
・伊東 敏雄・高橋 重雄・則竹 浩二・粕谷 重次
・廣田 嘉胤・在塚 茂登子・関 美智子・近藤 祐治
・渡辺 昌介・穴田 史朗・渡邊 恭子・永田 昇
・吉野 勉・内田 國夫・加藤 弘茂
- ◎幹事
・佐々木 章・菊池 武伸
- ◎会議サポート
・篠原 康明・淀川 穰
- ◎事務局
・吉川 光彦・土屋 清・中島 哲・斉藤 昇司

18

22名

2010/1/31実施シンポジウム基調報告資料

平成18・19年度 地域産業振興委員会
(敬称略)

◎委員
・伊東 敏雄・高橋 重雄・粕谷 重次・穴田 史朗
・近藤 祐治・則竹 浩二・在塚 茂登子・渡辺 昌介
・関 美智子・渡邊 恭子・加藤 弘茂・佐藤 寛俊
・吉野 勉・小山 満

◎幹事
・佐々木 章・菊池 武伸

◎会議アドバイザー
・篠原 康明・淀川 穰

◎事務局
・吉川 光彦・土屋 清・腰越 政男・中島 哲

19 21名

平成20・21年度 地域産業推進協議会
(敬称略)

◎委員
・高橋 重雄・伊藤 賢一・遠藤 清美・齋藤 正人
・野村 基之・篠宮 宣典・石坂 圭・栗原 和史
・加藤 弘茂・小山 秀男

◎会議アドバイザー
・篠原 康明・渡邊 恭子

◎事務局
・吉川 光彦・土屋 清・木暮 昭・腰越 政男
・中島 哲・渡辺 孝一・廣瀬 明子・櫻井 康

20 19名

ご清聴ありがとうございました。
～これから休憩となります～

21



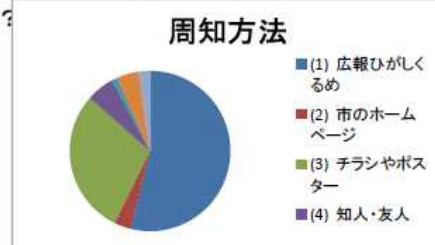
基調報告の様子

◎資料 「地域の資源再発見！シンポジウム」 アンケート結果
平成 22 年 1 月 31 日（日）実施 参加者 180 名（シンポジウムのみ）

「2010シンポジウム参加アンケート」集計表(抜粋) 平成22年1月31日（日）実施
参加者180名 回収率49.4%

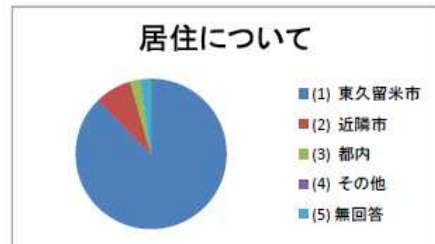
問1 本日のシンポジウムはどのようにお知りになりましたか？

		回答数	構成比
(1)	広報ひがしくるめ	48	53.9%
(2)	市のホームページ	3	3.4%
(3)	チラシやポスター	26	29.2%
(4)	知人・友人	5	5.6%
(5)	家族	1	1.1%
(6)	その他	4	4.5%
(5)	無回答	2	2.2%
	計	89	100.0%



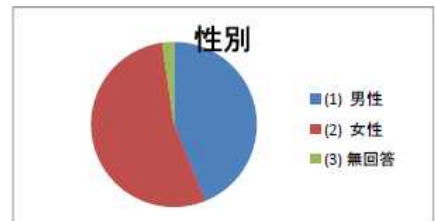
問2-1 お住まいはどちらですか？

		回答数	構成比
(1)	東久留米市	78	87.6%
(2)	近隣市	7	7.9%
(3)	都内	2	2.2%
(4)	その他	0	0.0%
(5)	無回答	2	2.2%
	計	89	100.0%



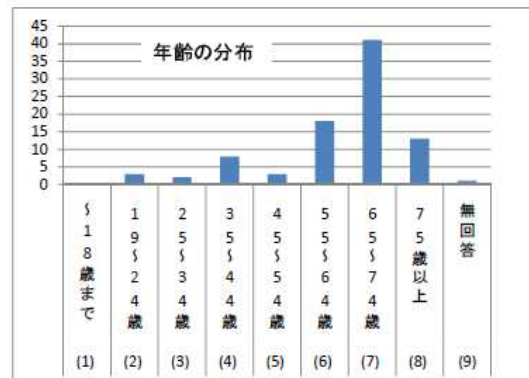
問3 性別をお聞かせ下さい。

		回答数	構成比
(1)	男性	39	43.8%
(2)	女性	48	53.9%
(3)	無回答	2	2.2%
	計	89	100.0%



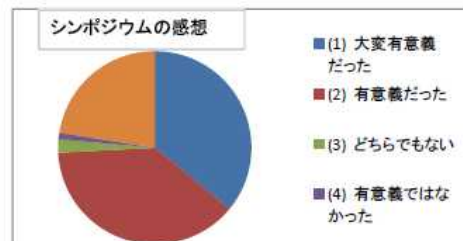
問4 年齢をお聞かせ下さい。

		回答数	構成比
(1)	～18歳まで	0	0.0%
(2)	19～24歳	3	3.4%
(3)	25～34歳	2	2.2%
(4)	35～44歳	8	9.0%
(5)	45～54歳	3	3.4%
(6)	55～64歳	18	20.2%
(7)	65～74歳	41	46.1%
(8)	75歳以上	13	14.6%
(9)	無回答	1	1.1%
	計	89	100.0%



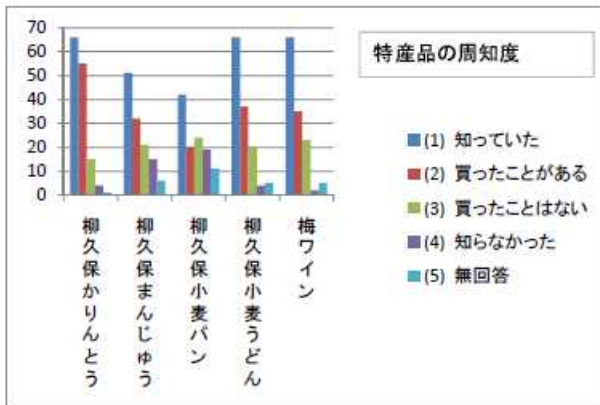
問5-1 シンポジウムのご感想をお聞かせ下さい。

		回答数	構成比
(1)	大変有意義だった	32	36.0%
(2)	有意義だった	34	38.2%
(3)	どちらでもない	2	2.2%
(4)	有意義ではなかった	1	1.1%
(5)	全く有意義ではなかった	0	0.0%
(6)	無回答	20	22.5%
	計	89	100.0%



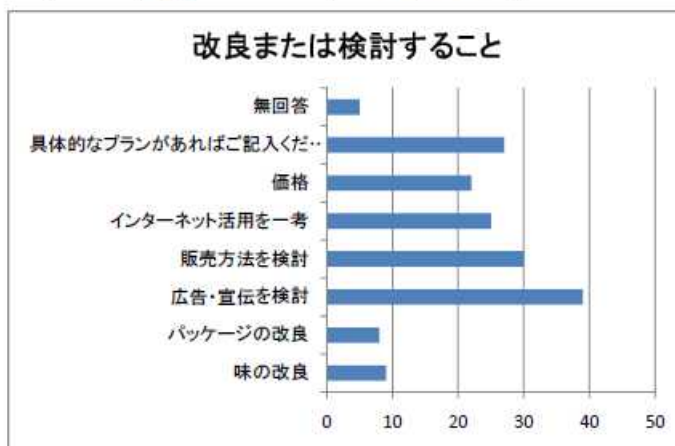
問6-1 特産品の周知度

		柳久保かりんとう	柳久保まんじゅう	柳久保小麦パン	柳久保小麦うどん	梅ワイン
(1)	知っていた	66	51	42	66	66
(2)	買ったことがある	55	32	20	37	35
(3)	買ったことはない	15	21	24	20	23
(4)	知らなかった	4	15	19	4	2
(5)	無回答	1	6	11	5	5
	計	141	125	116	132	131



問8-1 もっと販売を拡大するには、どの点について改良また検討が必要だとお考えですか？（問6で購入、召し上がった方のみ）

		回答数	構成比
(1)	味の改良	9	5.5%
(2)	パッケージの改良	8	4.8%
(3)	広告・宣伝を検討	39	23.6%
(4)	販売方法を検討	30	18.2%
(5)	インターネット活用を一考	25	15.2%
(6)	価格	22	13.3%
(7)	具体的なプランがあればご記入ください。	27	16.4%
(8)	無回答	5	3.0%
	計	165	100.0%



柳久保小麦商品取扱店

	店舗名	住所	電話番号
味わいの 手打ちうどん	手打ちうどん 一長	本町 1-4-28	475-5306
	手打ちうどん 不動	前沢 3-4-3	476-6696
	久乃家	中央町 5-7-46	473-0750
もちもち食感の 柳久保まんじゅう	むさし梅月 下里本店	下里 3-17-11	477-1008
	むさし梅月 中央町店	中央町 2-1-55	471-4343
	和菓子処 いせや	金山町 1-1-4-101	471-0302
ふっくら手作りパン	プチ・フール	中央町 4-2-18	474-0139
カリッと香ばしい かりんとう 180g/380 円 黒糖味とアーモンド味が あります。	むさし梅月 下里本店	下里 3-17-11	477-1008
	やまも酒店	滝山 4-1-40	471-7060
	テラス・シャモア	大門町 1-1-21	472-0717
	Y ショップ・エチゴヤ	本町 1-4-39	473-0952
	JA 東京みらい東久留米支店	幸町 3-7-2	475-0022
	酒工房 おおの	新川町 1-6-3	471-1353
	Pure House たけうち	東本町 5-28	471-0007
	田嶋商店	滝山 5-1-14	473-3905
	田嶋屋酒店	下里 7-8-10-104	474-4163
	和菓子処 いせや	金山町 1-1-4-101	471-0302
	長崎屋	本町 2-14-13	471-0858
	中谷製菓	南町 3-10-29	471-5321
	高村屋	滝山 5-22-14	473-2013



梅ワイン「梅うふふ」販売店

	販 売 店 名	住 所	電 話
1	港屋	上の原1-4-28-109	471 - 2751
2	足立屋酒店	氷川台1-11-21	471 - 5201
3	ぬく井酒店	氷川台1-13-9	473 - 3139
4	細田酒店	大門町2-13-6	471 - 1448
5	野島酒店	大門町1-2-36	471 - 7067
6	Pure House たけうち	東本町5-28	471 - 0007
7	マイマートしみず	新川町1-3-19	471 - 1438
8	酒工房 おおの	新川町1-6-3	471 - 1353
9	Y ショップ・エチゴヤ	本町1-4-39	473 - 0952
10	長崎屋	本町2-14-13	471 - 0858
11	JA 東京みらい 東久留米支店	幸町3-7-2	475 - 0022
12	海老沢酒店	南沢1-19-5	471 - 0052
13	石森酒店	滝山3-10-11	473 - 3612
14	やまも酒店	滝山4-1-40	471 - 7060
15	田嶋商店	滝山5-1-14	473 - 3905
16	高村屋	滝山5-22-14	473 - 2013
17	田嶋屋酒店	下里7-8-10-104	474 - 4163
18	藤小西	八幡町2-11-49	471 - 2961
19	セブンイレブン 東久留米八幡町三丁目店	八幡町3-2-28	477 - 6182

東久留米市地域産業推進協議会
会議報告書

元気で活力ある
東久留米を目指して



平成 22 年 2 月
東久留米市地域産業推進協議会